DESCENTE

生存のすべてを託す、一球のシュートもある。

スポーツマンたちは激しい練習に耐える。それは満足のいくプレーを行うためである。
自らが描いたイメージを、自らの肉体によって実現することが、
彼らの目標であり、彼らのよろこびでもある。
それが無為な行為だとしたら、ロマンと呼んでいいかも知れない。
それこそが、スポーツマンたちの生活そのものであるから。
「アディダス」ハンドボールウェアは、最新の機能で彼らのロマンに応えます。

第9回日本リーグ後期開幕

女子 大崎電気が早くも優勝を決める

第9回日本リーグ後期は、9月8日、その幕を開けた。今回のリーグ戦は、男子がロサンゼルス・オリンピック出場の影響で、前期の試合はなく、後期だけ1回総当りという変則リーグとなった。

後期リーグは、女子は第3週で早くも優勝候補同士の大崎電気と立石電機が対戦した。この一戦、立石のユーゴからの〝助っ人〟ビスニッチがまだ十分に日本のハンドボールになじんでいないスキに大崎が前半一気にリードを奪って快勝、大崎は翌週のジャスコ戦にも勝って6戦全勝で、かりに最終戦に敗れてもライバル立石を破っており、リーグ規定で初優勝が決定した。

一方男子では、連覇を目ざす湧永製薬が、チームの主力を長期間全日本のメンバーに出していた影響もあってか、緒戦から今一息調子に乗れず、第3週で遂に日新製鋼の前に苦杯を喫してしまった。一方雪辱を期する大同特殊鋼は、田口、高村らの若手が成長、出だしこそ苦戦したものの順調に勝ち星を重ね、11月17日の最終戦で湧永と優勝を賭けて戦う。

なお、リーグ戦は10月はいったん休み、11月3日から後期第5週を再び開幕、最終週11月17日まで行なわれる。

男子・湧永、日新に苦杯を喫す

第1週第1日（9月8日）

▼栃木市総合体育館（栃木）

〈男子〉

湧永製薬 25 〔7－11 / 18－12〕 23 大崎電気
（1勝） （1敗）

〔大崎〕

		得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	0
	東江	7
	武田	2
	長野	8
	松岡	0
	越迫	1
	首藤	5
	宮崎	0
	星野	0
	八幡	0
PT	(2)	23

〔湧永〕

		得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	5
	生駒	7
	穂積	1
	藤本	2
	志賀	0
	中川	0
	松本	3
	山本	6
	原田	0
	檜原	1
PT	(1)	25

〔審・岡本 清水〕

○…終了2分前、湧永が池ノ上の得点で逆転勝利。試合は一進一退のシーソーゲームを展開、東江の変則シュートとサイド攻法で、大崎が前半4点リード。後半も出だしはシーソーゲームをくり広げたが、15分過ぎ、大崎・長野がペナルティスローを落として流れが変り、自己のペースを守り続けた湧永は、池ノ上、生駒が3連続得点をそれぞれ重ねて追いつき、終了2分前に逆転した。

湧水はGK井藤の欠場が苦戦の要因。大崎の若さあふれる動きは立派であった。

〈女子〉

日立栃木 31 〔12－14 / 19－7〕 21 ジャスコ
（3勝1敗） （2勝2敗）

〔ジャ〕

		得
GK	木村	0
	羽深	0
FP	寺沢	7
	石田	2
	鷲野	2
	伊勢	4
	三木	1
	宮本	1
	十九江	0
	野村	0
	近藤	4
	徳重	0
PT	(2)	21

〔日立〕

		得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	栗原	0
	西山	2
	清水	0
	土屋	3
	前田	8
	吉田	4
	山本	0
	山岸	4
	井沢	9
	菅原	1
PT	(1)	31

〔審・住民 広沢〕

○…ジャスコの出足は良く、細かく動くクロスプレイで寺沢、伊勢が連続得点し、日立のあたりを封じたが、20分過ぎから日立がペースをとりもどし、2点差まで追い上げて前半を終わる。

日立はペナルティスロー4本を落としたが、後半には動きがしだいに良くなり、特に井沢の活躍が光った。それに伴い、GK葛生の好守もあって同点、それ以後の攻守はジャスコの動きを上回り、日立栃木の走力が勝利を呼んだ。

▼岩井市総合体育館（茨城県）

〈男子〉

大同特殊鋼 22 〔9－10 / 13－7〕 17 本田技研鈴鹿
（1勝） （1敗）

〔本田〕

		得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	3
	三本松	2
	田野	2
	立木	2
	尾上	0
	下井	0
	栗屋	3
	吉山	4
	田口	1
	坂本	2
PT	(3)	18

〔大同〕

		得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	3
	田口	11
	高村	0
	柳川	0
	大原	0
	中本	5
	河井	0
	蒲生	2
	市川	1
	佐藤	0
PT	(1)	22

〔審・矢澤 横瀬〕

○…前半立ち上がりは、両者慎重な試合運びで始まった。

本田は、大同・高村を強いマークでおさえ、シュートをはばんだ。さらにGK・大畑の好キーピングで再三ノーマーク・シュートを止め、試合の流れを自軍のものとした。一方、大同は田口のロングで加点するものの本来のペースが出ず、前半9－10と本田1点リードで折り返した。

後半、ようやくリズムを取り戻

した大同は1分、田口が左サイドからうまく決めて同点、さらに田中が右45度からポストシュートを放ち逆転。10分過ぎには15―12と優勢に立った。一方本田は、前半のペースを徐々にダウンしてミスが出始めてしまった。佐々木を中心に立て直しを計ろうとするが、大同のディフェンスを崩すことが出来ず栗屋、吉山といったところがサイドから単発に決めるだけになってしまった。大同は、田口の11ゴールに加え中本の頑張りで重要な初戦をものにした。

〈女子〉

日本ビクター 26（13―9、13―10）19 ブラザー工業
（2勝2敗）（4敗）

	〔ブ工〕	得
GK	畑添	0
	大數	0
FP	荒木	0
	竹内	3
	赤井	5
	中村	0
	増永	0
	太田	3
	久保田	6
	奥山	0
	松下	2
	原田	0
PT	(2)	19

	〔日ビ〕	得
GK	渡辺	0
FP	志村	6
	中根	3
	門脇	0
	長田	2
	武藤	4
	遠藤	5
	鈴木	0
	下條	6
	根本	0
	池田	0
PT	(5)	26

（審・島田、後藤）

○…前半、ビクター・遠藤、下條のヤングコンビに志村を軸に加点、ブラザーは久保田、中村を中心に竹内がリードをとる展開でゲームが進むが、ブラザーはどうしても追いつけず13―10で前半終了。

ビクターは後半スタート後、8分間はブラザーの固いディフェンスに攻めあぐんだが、ブラザー・竹内のオーバーステップを機にリズムが崩れたブラザー陣のスキを突いて攻め込み、逃げ切った。

第1週第2日（9月9日）

▼市川市民体育館（千葉県）

〈男子〉

三陽商会 27（15―10、12―11）31 日新製鋼
（1勝）（1敗）

	〔日新〕	得
GK	西川	0
	谷	0
FP	泉	0
	徳田	4
	藤井	2
	吉見	1
	洞ヶ瀬	2
	脇若	0
	森	0
	甲斐	1
	西山	3
	宮下	8
PT	(3)	21

	〔三陽〕	得
GK	田村	0
	内野	0
FP	関	6
	田口	2
	坪子	0
	砂川	5
	山口	6
	石原	1
	実方	7
	鶴沢	0
	安藤	0
	河村	0
PT	(3)	27

（審・上久保、井井）

○…立ち上がりから三陽が好スタート。関、砂川、実方の得点でリード。日新は宮下の連続得点で追ったが、前半を終って12―11と1点差のまま。後半に入って同点にしたものの、三陽が意気盛んな闘志で再びリードを奪って差を広げた。日新は動きも今ひとつで、GK・田村の好守にあい敗戦となった。三陽商会は、一躍今季の台風の目として注目を浴びることになった。

〈女子〉

日立栃木 24（15―8、9―8）16 日本ビクター
（4勝1敗）（2勝3敗）

○…両チームともよく走り、前半は全く互角の戦いであったが、

	〔日ビ〕	得
GK	渡辺	0
FP	志村	4
	中根	3
	門脇	1
	長田	1
	武藤	4
	遠藤	2
	鈴木	0
	下條	1
	根本	0
	池田	0
PT	(2)	16

	〔日立〕	得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	栗原	0
	西山	1
	清水	1
	土屋	3
	前田	7
	吉田	2
	山本	1
	山岸	6
	井沢	3
	尾苗	0
PT	(1)	24

（審・佐分、大塚）

後半に入って日立は前田、山岸の連続得点でリードを握り、大事な勝利をものにした。

ビクターは日立のディフェンスを攻めあぐみ、ミスも出て8点の大差で敗れた。ビクターのスタミナ切れが敗因。

第2週第1日（9月15日）

▼岐阜県民体育館（岐阜県）

〈女子〉

立石電機 23（14―9、9―8）17 日立栃木
（5勝）（4勝2敗）

	〔日立〕	得
GK	椿谷	0
	葛生	0
FP	栗原	1
	西山	2
	清水	0
	土屋	0
	前田	6
	吉田	3
	山本	0
	山岸	2
	井沢	3
	中村	0
PT	(1)	17

	〔立石〕	得
GK	井村	0
	荒木	0
FP	是枝	4
	近藤	4
	亀園	1
	岩村	3
	藪田	0
	江口	1
	山内	1
	野嶋	5
	長谷川	0
	ビーパ	4
PT	(7)	23

（審・川島、森）

○…前半、立ち上がり立石はパスミスが目立ち先取点をあげられたが、すかさずビスニッチのロングシュートにより同点にした後、ポスト、ロングシュートなど多彩な攻めにより得点を重ね6―3とリードした。しかし、日立も粘りを見せ、終盤に8―9と1点差に詰め寄った。

後半は、日立・前田のシュートにより同点にした後、両チームとも得点を譲らずシーソーゲームとなったが、15分過ぎから立石が速攻、ポストプレーにより連続4ゴールを奪い、その後もチャンスを生かし逃げ切った。

▼福島県体育館（福島県）

〈男子〉

大崎電気 30（15―16、15―10）26 三陽商会
（1勝1敗）（1勝1敗）

	〔三陽〕	得
GK	田村	0
	内野	0
FP	関	4
	田口	3
	坪子	0
	砂川	7
	山口	7
	石原	0
	実方	3
	鶴沢	0
	安藤	0
	河村	2
PT	(3)	26

	〔大崎〕	得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	0
	東江	7
	武田	4
	長野	12
	松岡	4
	越迫	1
	首藤	2
	宮崎	0
	星野	0
	山本	0
PT	(4)	30

（審・畠山、小友）

○…前半、大崎は長野の速攻が立てつづけに決まり、絶えずリードを保つ。しかし、三陽も関、実方らのロングで詰めよる。残り21分から大崎は速攻で3連取し、5点差で折り返した。

後半、三陽は砂川のサイドシュートや山口のポストシュートで追い上げたが、26分に山口が退場。その間げきをついて、大崎は速攻やサイドシュートを決めてリードをひろげた。三陽は4点差で大崎の軍門に下った。

第3週第1日（9月22日）

▼京都府立体育館（京都府）

〈男子〉

涌永製薬 26（15―8、11―9）17 本田技研鈴鹿
（2勝）（2敗）

	〔本田〕	得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	1
	三本松	2
	田野	1
	立木	3
	尾上	0
	玉井	0
	栗屋	4
	吉山	4
	田口	0
	坂本	2
PT	(3)	17

	〔湧永〕	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	4
	穂積	3
	藤本	4
	志賀	0
	中川	0
	内田	0
	松本	2
	山本	4
	原田	3
PT	(1)	26

（審・福井、藤本）

○…前半なかばまで5―5の同点と互角の展開だったが、湧永はGK大城の好キープを足がかりに生駒、池ノ上、原田の的確なシュートで3連続ゴール、20分8―5として主導権を握った。

本田もGK大畑の果敢なキーピングで踏んばり、吉山、田野、立木ら若手の活躍もあって、前半を9―11と射程距離で折り返し、5月の全日本実業団選手権での勝利の再現を狙うのだが、後半に入るとベテランの穂積、藤本、さらに左ヒザを痛めて第1週の大崎戦を欠場したエースGK井藤を投入した湧永が一気にエンジン全開、7分16―14から9連続ゴールをもぎとり、22分25―14と大きく水があいて試合の行くえは決まった。大

崎戦といい湧永の攻守に昨年の四冠王らしい歯切れの良さは見られなかったが、チーム合流から僅か4日という井藤の気迫のキーピングで本田の追撃をピシャリと断ち、山本、藤本、穂積、松本らの相変わらずの巧技で危なげなく2勝目をあげた。

〈女子〉

大崎電気27（10—12 17—10）22立石電機
（5勝）（5勝1敗）

〔立石〕

	選手	得
GK	井村	0
FP	荒木	0
	是技	0
	近藤	2
	亀園	3
	岩村	4
	薮田	1
	江口	1
	山内	3
	野嶋	4
	長谷川	0
	ビーバ	4
PT	(1)	22

（審・千野 斉藤）

〔大崎〕

	選手	得
GK	梅野	0
FP	藤田	0
	大日	0
	宮嶋	2
	石井	5
	時實	1
	徳渕	5
	沖山	0
	深沢	0
	李相玉	8
	李京姫	6
	松尾	0
PT	(1)	27

○…立石電機は、この一戦に勝てば11月の最終戦を待たずしてV5が決定する。それにロス五輪金メダリストのビスニッチ（ビーバ）の来日2戦目のプレーぶりと日本リーグ初制覇を目ざす意欲まんまん大崎電気との対決とあって、女子の天王山にふさわしい見所がいっぱいの試合だった。

先手を取ったのは立石で、左腕・近藤のフォーメーションプレー、新鋭・野嶋の鋭いステップシュートで幸先よく2点連取、その後大崎に4連続ゴールを奪われたが、助っ人・ビスニッチの高打点ロングを軸に薮田、亀園らの切り込みで15分過ぎに8—6とリード、16分の岩村の2分間退場のピンチにも野嶋が矢のようなシュートを大崎ゴールに突き刺すなど立石が押し気味に試合を進めていた。

しかし、「激しいゲーム展開に持ち込んでいけばビスニッチとのコンビネーションに不安のある立石はペースダウンするはず」という大崎電気の・谷口監督の読み通り、速攻主体のスピーディな攻撃を繰り広げる大崎が、がぜん攻撃に転じたのが後半20分過ぎ。守りのキーマン役となる時實が、出足のいいフットワークでビスニッチに激しく襲いかかり、立石のパスコンビネーションを崩したのが大きくものをいった。

李コンビの華麗な連続ゲットで9—9の同点に追いついた3分後、時實のパスカットからの独足で逆転に成功した大崎は、この時實のポストプレーで得たPTを相玉が決めて2点差、立石・近藤にサイドシュートを許したものの、いったん火がついた大崎の速攻プレーは衰えを見せることなく、相玉のミドルシュートに始まり、徳渕の速攻と京姫のロング攻撃が面白いように立石ゴールを割って前半残り5分から怒とうの6ゴール連取、前半を17—10と予想外の大差で握り、勝利のメドをつけた。

立石は心配されたコンビネーションの崩れをもろにつかれた格好。ともかくもポストのカーヤに合わせればプレーが回転した昨年までに比べると、やはりビスニッチが配球、攻撃の軸となるべきポジションだけに、時間が足りなかったのは明らかだった。「かえって外人を入れたマイナス面が出た」と立石・井監督。

後半、ベテランGK・井村を起用し若手の山内、野嶋らの奮戦はあったが、前半の大差をくつがえすに至らず、石井、相玉らで着実に追加点を奪った大崎が27—22で完勝した。

大崎はこれで5戦全戦となり、次週のジャスコ戦に勝てば最終の日立戦を待たずして待望の日本リーグV1達成が決まる。立石の日本リーグ連勝「31」でストップした。

第3週第2日（9月23日）
▼明石市中央体育館（兵庫県）

〈男子〉

日立製鋼17（9—9 8—6）15湧永製薬
（1勝1敗）（2勝1敗）

〔湧永〕

	選手	得
GK	大城	0
	井藤	0
FP	池ノ上	6
	生駒	3
	穂積	0
	藤本	1
	志賀	0
	中川	0
	内田	0
	松本	1
	山本	3
	原田	1
PT	(5)	15

（審・浜野 北山）

〔日新〕

	選手	得
GK	西川	0
	森田	0
FP	泉	0
	徳田	4
	藤井	0
	吉見	3
	洞ヶ瀬	5
	脇若	0
	森	0
	甲斐	0
	西山	5
	宮下	0
PT	(4)	17

○日新が"二強"から待望の白星をもぎとった。ここ数年、日新はめっきりチーム力を上昇させ、湧永製薬、大同特殊鋼の両横綱に肩を並べるまでに成長を続けてきたが、あと僅かのところで二強の厚い壁に阻まれて涙を飲んできた。今リーグも期待されながらの登場だったが、開幕戦で三陽商会に不覚をとる多難なスタート。それだけに初白星を、それも念願の湧永戦の勝利で飾ることができた日新セブンは、タイムアップの瞬間には吹上監督をはじめ感涙にむせびながら肩を抱き合って歓びを爆発、宿願を果たした感激に浸るシーンがいつまでも続いた。

前半20分過ぎ9—5と差が開いた時は湧永の勝利は動きそうもなかったが、ここからはなんと25分あまり湧永の得点はピッタリ止まった「9」のまま。「退場、失格をもいとわない」というむき出しの闘志で生駒マークに出た泉をはじめ日新セブンディフェンスにタジタジとなった感じの湧永は、池ノ上、山本、穂積らで懸命にシュートを狙ったが、やはり気迫に押されたぶん甘さがあったのか、いずれもゴールポストに当たる"不運の一投"になったり、日新GK西川の好守に会って、ことごとくチャンスの芽をつぶしてしまった。

前半終了間ぎわの西山の強打で同点に追いついて勢いに乗る日新

は、後半出だしにも西山のジャンプシュートでこの試合初めて先行、さらに湧永に退場者が出たスキをついた徳田のサイドシュートなどでジリジリと差を広げた。攻めては激しいディフェンスに苦しめられ、守ってはじっくりとパスを回されるとあって、湧永サイドには次第にいらだちと焦りの色が目立ち始め、王者らしからぬイージーミスや荒いディフェンスが続出して日新のチャンスをさらにふくらませてしまった格好だった。

1本のシュートを決め、守る日新サイドはガッツポーズの乱舞。これに対し、湧永は17分、山本のPTでようやく得点を決め、生駒のロングも続いて20分11―13と反撃に転じるが、日新の勢いはとどまるところを知らず、21分(PT)、23分と洞ヶ瀬の貴重な連続ゴールで15―11。24分、池ノ上にPTを奪われ、泉を3回目の退場（失格）で失ったのもなんのその、西山の豪快な一投、徳田の執念のリバウンドシュートで歓喜の勝利へダメを押した。

湧永はタイムアップ寸前、オールコートマンツーに出て3ゴール連取したが焼け石に水、第1回リーグで大崎電気に敗れて以来、8年ぶりに大同特殊鋼以外のチームに痛恨の黒星をつけられる結果となった。

〈女子〉

ジャスコ17（9―3, 8―9）12 ブラザー工業
（3勝2敗）　（5敗）

〔ジャ〕	得		〔ブ工〕	得
木村	0	GK	畑添	0
山口	0	GK	大薮	0
寺沢	3	FP	竹内	1
石田	2	FP	赤井	2
鷲野	2	FP	中村	2
伊勢	3	FP	増永	1
三木	3	FP	太田	1
宮本	1	FP	久保田	1
野村	1	FP	奥山	1
近藤	2	FP	森山	0
徳重	0	FP	松下	0
高岡	0	FP	荒木	3
(2)	17	PT	(2)	12

（審・丸岡、大原）

○…入れ替え戦回避の上位4チームに食い込むためには、もう1つの敗戦も許されない両チーム、しかも東海勢のライバル同士の対戦とあって好ゲームが期待されたが、ゲーム開始からイージーミスの応酬で大味な内容。結局は勝負どころをことごとくつぶしたブラザーの拙攻がたたり、前半で9―3とリードしたジャスコが、そのまま優位をキープして3勝目。ブラザーはこれで5連敗となり、昨年に続いての入れ替え戦出場が確定した。

ジャスコが得意の速攻ペースに乗り切れずに苦しんでいただけに、ブラザーにとってはツケ入るスキは充分あった。後半に入り、体調を崩して戦列を離れていたキャプテン増永の登場で試合の流れを変えかけたが、新人を含めた若手主体のチーム構成とはいえ、この増永のハッスルプレーを実らせるべくチーム一丸となった気迫をもっと前面に出してほしかった。

第3週第3日（9月24日）

▼具志頭村社会体育館（沖縄県）

〈男子〉

大同特殊鋼24（14―5, 10―8）13 大崎電気
（2勝）　（1勝2敗）

〔大同〕	得		〔大崎〕	得
上村	0	GK	岡部	0
秋吉	0	GK	矢内	0
田中	4	FP	斉藤	0
田口	9	FP	東江	6
高村	2	FP	武田	0
柳川	1	FP	長野	4
大原	0	FP	松岡	2
中本	4	FP	越迫	0
河井	1	FP	首藤	1
蒲生	3	FP	宮崎	0
市川	0	FP	星野	0
小野	0	FP	山本	0
(2)	24	PT	(1)	13

（審・野中、竹村）

○…緒戦で湧永を寸前のところまで追いつめ、2戦目は日新を破って勢いに乗る三陽商会に快勝した大崎電気が大同特殊鋼に挑戦。前日「湧永敗る」のニュースは当然沖縄に届いており、波乱を予期するコートサイドのざわめきは、大崎が立ち上がりの3連続失点をあっさりと東江、首藤、長野、東江の4ゴール連取で切り返したとあってがぜん騒がしいものになった。

しかし、大同はロサンゼルス・オリンピックの活躍で自信をつけた田口を中心に、GK上村の好守、ベテラン中本のポストシュートも冴えを見せ、10分過ぎから一気にペースを握り、前半を14―5で折り返した。

後半、大崎は東江、長野が得点をくり返すが、大同は田口、田中らが着実に加点、エース蒲生をベンチに下げる余裕を見せて危なげなく逃げ切った。大崎は4―3と逆転した以降僅か1ゴールにとどまり、せっかくの好ムードに水をさし沈黙したのが痛かった。

第4週第1日（9月29日）

▼福井県営体育館（福井県）

〈男子〉

大同特殊鋼21（13―4, 8―10）14 日新製鋼
（3勝）　（1勝2敗）

〔大同〕	得		〔日新〕	得
上村	0	GK	西川	0
秋吉	0	GK	森田	0
田中	2	FP	泉	0
田口	8	FP	徳田	3
高村	4	FP	藤井	0
柳川	0	FP	吉見	0
大原	0	FP	洞ヶ瀬	5
中本	2	FP	脇若	0
河井	0	FP	森	0
蒲生	1	FP	甲斐	1
市川	4	FP	高木	1
佐藤	0	FP	西山	4
(3)	21	PT	(7)	14

（審・竹野、越田）

○…異様な緊迫したムードでスタート。日新2点リードで試合を盛り上げたが、大同は8分、2―2の同点としてからは、一方的な攻めで連続7ゲット。蒲生がチームを引っ張り、高村、田口の若手ロス五輪出場組が大活躍。さらに詰めのよいテンポのある大同のディフェンスが印象的であった。

後半、日新は本来の動きが出て一進一退だったが、前半の失点が勝敗を決めた。

▼四日市体育館（三重県）

〈男子〉

本田技研鈴鹿 30（16－11　14－11）22 三陽商会
（1勝2敗）（1勝2敗）

〔三陽〕		得
GK	大山	0
	田村	0
FP	関	8
	田口	0
	砂川	5
	山口	3
	石原	1
	実方	3
	鵜沢	0
	安藤	0
	河村	2
	吉原	0
PT	(1)	22

（審・岩本　岩永）

〔本田〕		得
GK	大畑	0
	中尾	0
FP	佐々木	2
	三本松	4
	田野	4
	立木	1
	玉井	3
	粟屋	4
	吉山	6
	田口	1
	坂本	4
	山本	1
PT	(6)	30

○…前半10分まで三陽のパス、シュートミスから本田の速攻が出て7－2と5点のリード。その後、三陽のミドルシュート、本田のミドルシュートの打ち合いが続いた。前半残り5分で本田は2人の退場者を出すが、ここで三陽は差を詰めることが出来ず前半を終了。

後半、三陽の関のミドルシュートが決まりだしたが、地力に勝る本田がミドル、速攻と決めて点差が詰まらず、追いすがる三陽を振り切った。

〈女子〉

大崎電気 24（11－8　13－12）20 ジャスコ
（6勝）（3勝3敗）

○…先行する大崎、追いつくジャスコの展開が続いた前半12分、三木の速攻でジャスコは初めてリードを奪った。しかし20分過ぎから大崎は、相手の乱れにつけ込み速攻、ペナルティーなどで一気に6点を連取し、逆に3点差をつけて折り返した。

〔ジャ〕		得
GK	木村	0
	小深田	0
FP	寺沢	4
	石田	2
	鷲野	1
	伊勢	2
	三木	6
	宮本	0
	十丸	0
	野村	0
	近藤	4
	徳重	1
PT	(3)	20

（審・小山　浅田）

〔大崎〕		得
GK	梅野	0
	藤田	0
FP	大日	0
	宮嶋	4
	石井	3
	時実	0
	徳渕	5
	沖山	0
	深沢	0
	李相玉	9
	李京姫	3
	松尾	0
PT	(3)	24

後半、地元の声援を受けてジャスコが食い下がりを見せる場面もあったが、ゲームの流れを変えるまではいたらず、結局よく走った大崎が余裕をもって逃げ切った。

後期第4週第2日（9月30日）

▼富山県総合体育センター（富山県）

〈男子〉

日新製鋼 21（9－5　12－16）21 大崎電気
（1勝1分2敗）（1勝1分2敗）

〔大崎〕		得
GK	岡部	0
	矢内	0
FP	斉藤	0
	東江	6
	武田	0
	長野	6
	松岡	3
	越迫	0
	首藤	4
	宮崎	0
	星野	0
	山本	2
PT	(4)	21

（審・徳前　田嶋）

〔日新〕		得
GK	西川	0
	森田	0
FP	泉	0
	徳田	2
	藤井	1
	吉見	3
	洞ケ瀬	3
	脇若	0
	森	0
	甲斐	2
	高木	4
	西山	6
PT	(6)	21

○…両チーム攻撃の型にこだわらず、スピードに欠け、非常に得点の少ないゲーム展開となる。日新は得点の約5割がペナルティゴール。一方、大崎は長野選手がよく動きゴールを狙うが今一歩でイン成らず。

後半、大崎は10分間に6点をあげ逆転したが、15分過ぎから日新の攻撃にリズムが出て、西山、高木のロングで再逆転。その後、日新優勢のまま一進一退を続けたものの、残り1分に大崎・東江の速攻シュートが決まり同点引き分けとなった。

〈女子〉

日本ビクター 29（14－8　15－11）19 東京重機
（3勝3敗）（5敗）

〔重機〕		得
GK	深瀬	0
	石井	0
FP	山崎	2
	市川	11
	森田	0
	呑村	0
	古谷	0
	沖山	2
	大前	0
	渡辺	3
	矢田	0
	安田	1
PT	(3)	19

（審・竹田　越田）

〔日ビ〕		得
GK	渡辺	0
FP	志村	10
	中根	3
	門脇	4
	長田	1
	武藤	5
	遠藤	0
	鈴木	0
	下條	5
	根本	0
	池田	1
PT	(2)	29

○…立ち上がりミスが多く荒っぽい感じのゲームであったが、徐々にスピーディになり、前半12分、ビクターの志村選手が3点目をあげ通算200得点を達成。また、この試合10点でチームの原動力となった。さらに武藤、下條の頑張り（5得点）でビクターのリードを保った。一方、重機は市川が11得点とチームを引っぱったが、総合力に勝るビクターの前に力尽きた。

▼露橋スポーツセンター（愛知県）

〈男子〉

大同特殊鋼 37（13－8　24－10）18 三陽商会
（4勝）（1勝3敗）

〔三陽〕		得
GK	大山	0
	内野	0
FP	関	4
	田口	0
	砂川	4
	山口	5
	石原	0
	実方	1
	鵜沢	1
	安藤	0
	河村	3
	吉原	0
PT	(3)	18

（審・大橋　久保田）

〔大同〕		得
GK	上村	0
	秋吉	0
FP	田中	6
	田口	12
	高村	5
	柳川	0
	大原	1
	中本	3
	河井	1
	蒲生	6
	市川	3
	小野	0
PT	(5)	37

○…試合開始から三陽は組織的なディフェンスで大同の攻撃をよく食い止め、速攻、カットインで得点する。前半15分までは互角の展開となったが、その後大同は田口、高村の高打点からのシュートで点差を広げる。

後半に入っても大同はスピーディな攻撃で次々と得点を重ね三陽を圧倒した。

〈女子〉

大和銀行 16（8－7　8－8）15 ブラザー工業
（2勝3敗）（6敗）

○…立ち上がりブラザーは、3分荒木のPTで先制点、その後も中村のロングなどで得点を重ねた。一方の大和も馬渡のサイドシュート、秋成のカットインで徐々に反撃し、25分には若水の速

得 〔プ工〕
添　0　畑
藪　0　大
内　2　竹
井　1　赤
村　5　中
永　2　増
田　0　太
田　0　久保
山　0　奥
山　0　森
下　2　松
木　3　荒
15　(3)

GK
FP
PT
（審・後藤 島田）

〔大和〕得
浜　高　0
本　松　0
成　秋　4
橋　高　1
添　川　0
水　若　5
渡　馬　3
谷　天　1
田　前　0
田　植　2
西　上　0
岡　丸　0
(0)　16

攻で逆転。

後半に入っても一進一退の攻防が続いたが、残り6分から大和は速攻などで連続3得点、ブラザーも1点差まで追いあげたが、最後は力尽きてしまった。

◆日本リーグ二部

女子はムネカタの優勝　男子は三景とイーグルスがリード

後期第1週第1日（9月8日）

▼大崎電気体育館（埼玉県）

中村荷役 26 {13-12 13-11} 23 本田技研熊本
（3勝）　（1勝1分1敗）

三景 28 {10-12 18-10} 22 トヨタ自動車
（2勝1分）　（3敗）

トヨタ車体 31 {17-15 14-6} 21 大阪ガス
（2勝1敗）　（3敗）

大阪イーグルス 31 {15-13 16-8} 21 日鉄建材
（2勝1分）　（1分2敗）

トヨタ自動車 29 {14-12 15-9} 21 中村荷役
（1勝3敗）　（3勝1敗）

三景 21 {12-11 9-8} 19 本田技研熊本
（3勝1分）　（1勝1分2敗）

日鉄建材 29 {15-13 14-11} 24 トヨタ車体

後期第2週第1日（9月15日）

大阪イーグルス 33 {16-15 17-7} 22 大阪ガス
（3勝1分）　（4敗）
（1勝1分2敗）　（2勝2敗）

▼岐阜県民体育館（岐阜県）

後期第2週第2日（9月16日）

日鉄建材 29 {18-7 11-8} 15 大阪ガス
（2勝1分2敗）　（5敗）

▼福島体育館（福島県）

第4週第1日（9月29日）

三景 22 {11-14 11-7} 21 中村荷役
（4勝1分）　（3勝2敗）

▼福井県営体育館（福井県）

大阪イーグルス 32 {18-10 14-10} トヨタ車体
（4勝1分）　（2勝3敗）

〈女子〉

後期（9月16日）

▼福島体育館（福井県）

ムネカタ 18 {10-8 8-5} 13 北国銀行
（1勝1分）　（1分1敗）

□第9回日本ハンドボールリーグ成績表

〔1部男子〕	湧永	大同	日新	本田鈴鹿	大崎	三陽	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
湧永製薬	＼		●	○	○		2	0	1	4	66	57	9	
大同特殊鋼		＼	○	○	○	○	4	0	0	8	104	62	42	
日新製鋼	○	●	＼		△	●	1	1	2	3	73	84	-11	
本田技研鈴鹿	●	●		＼		○	1	0	2	2	64	70	-6	
大崎電気	●	●	△		＼	○	1	1	2	3	87	96	-9	
三陽商会		●	○	●	●	＼	1	0	3	2	93	118	-25	

〔1部女子〕	立石	ジャスコ	大崎	日立	大和	ビクター	ブラザー	重機	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
立石電機	＼		●	○	○	○	○	○	5	0	1	10	143	114	29	2
ジャスコ		＼	●	●	○	●	○	○	3	0	3	6	136	125	11	
大崎電気	○	○	＼		○	○	○	○	6	0	0	12	170	116	54	1
日立栃木	●	○		＼	●	○	○	○	4	0	2	8	139	114	25	
大和銀行	●	●	●	○	＼		○		2	0	3	4	95	106	-11	
日本ビクター	●	○	●	●		＼	○	○	3	0	3	6	144	139	5	
ブラザー工業	●	●	●	●	●	●	＼		0	0	6	0	97	136	-39	
東京重機	●	●	●	●		●		＼	0	0	5	0	72	146	-74	

〔2部男子〕	中村	トヨタ車体	三景	トヨタ自	本田熊本	イーグルス	日鉄	大ガス	勝数	分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差	順位
中村荷役	＼		●	●	○		○	○	3	0	2	6	128	117	11	
トヨタ車体		＼		○	●	●	●	○	2	0	3	4	123	136	-13	
三景	○		＼	○	○		△	○	4	1	0	9	127	106	21	
トヨタ自動車	○	●	●	＼		●			1	0	3	2	96	108	-12	
本田技研熊本	●	○	●		＼	△			1	1	2	3	100	95	5	
大阪イーグルス		○		○	△	＼	○	○	4	1	0	9	155	112	43	
日鉄建材	●	○	△			●	＼	○	2	1	2	5	129	127	-2	
大阪ガス	●	●	●			●	●	＼	0	0	5	0	95	152	-57	

〔2部女子〕	北国	ムネカタ	勝数	分数	敗数	総得点	総失点	差	順位
北国銀行	＼	△ ●	0	1	1	32	37	-5	2
ムネカタ	△ ○	＼	1	1	0	37	32	5	1

男子

「打倒久留米」を合い言葉に

山田克彦

果たした喜び

選手権大会優勝校

浦和実業学園高校

創部10年、私が本校に就任して9年目にして「全国大会初優勝」を成し遂げることが出来ましたことは、この上ない喜びで一杯である。

過去の戦績は、昭和55年関東大会3位、56年2位、58、59年優勝。56年全国高校総体3位という結果であった。そして、昭和59年3月春の全国選抜大会において、準決勝、福岡県久留米工大附属高校と対戦、惜しくも残り5秒で逆転され1点差に泣いた時から「打倒久留米」を合い言葉に垂れ幕（交友会増井会長に依頼して作製して頂いた）を作って、毎日の練習時に掲げて来た。

今大会の反省は、①体力不足が後半の集中力不足。②筋持久力不足が後半の足をつる原因。③長身選手への詰めと高い打点のシュート・カットの悪さ。④得点源が一人に集中。⑤センタースリー攻撃の未完成。の5項目をあげ、これらを克服する為に、①毎日校庭、階段の登り降りを10周と12分間走の併用。（他に自主トレとして、キャプテン新井を筆頭に、清田、高橋、二階堂等が走って通学をしてくれた）。②ウエイト・トレーニングとストレッチ体操を含めた柔軟体操によって筋持久力、柔軟性をアップ。③長身選手への詰めと台を利用してのシュート・カットを徹底練習させた。④得点源分散の為に、オールラウンド・プレーヤー作りに専念、どのポジションからもシュートが打てる様に、シュート・テクニックを徹底指導し、打ち込ませた。⑤選抜大会より、ダブル・ポスト攻撃からセンタースリー攻撃に変えたので、真中の猪瀬のフェイントとパスワークを徹底指導し、攻撃範囲を広げた。

この5項目がマスターして来たので、必ず久留米には勝てると思った。

もちろん他にも選抜大会等のビデオを見て甲斐選手のシュート・フォームとコースの研究、攻撃パターンの分析を徹底して行なったので、試合で攻撃パターンが読めれば、選手はどうにか動いてくれると思った。

いよいよ8月7日。待ちに待った久留米との決勝戦の日がやって来た。

今大会に来てからは、①ウォーミング・アップの短縮。②飲料水の節制。③食事への配慮。④無駄な体力消耗防止。の4項目を指示して臨んで来た。また、前夜のミーティングにおいては、①身長差は左右一歩の大きな移動で克服出来る。②もどりの早さ。③甲斐選手のシュート・フォームとコースの再点検。④攻撃パターンは読める。と指示した。

さあ、試合開始3分前。前夜のミーティングの再確認をして試合に臨ませた。

午前10時。センターレフェリーのホイッスルのもとに試合が開始された。

まずは、ボール回わしからサイドのスカイプレーと読んで指示。見事に読みが当たってサイドへのパスをカット。次にボールは甲斐選手に集まって来るので攻撃パターンは読めた。

…が、甲斐選手のシュートに前半は5点を許し、8対8で終了。

ハーフ・タイムには、もう一度、GK石井に甲斐選手のシュート・フォームとコースを指示、新井へ勝負の声を掛けた。

後半開始5分頃から甲斐選手のシュートをGK石井が取るようになった。その後、他の選手のノーマーク・シュートも取り始め、一気にムードが浦実へと傾いた。そうなると久留米は、ますます甲斐選手にボールを集めて来たので、疲れが見えたか、170cmの猪瀬にまでシュート・カットされだした。それをマイボールにして得点を重ね、残り5分、22対16。残り3分、甲斐選手にPTを決められ22対17となったが、これで勝負は決まった。

結局、22対17で浦和実が初優勝を飾ることが出来た。

※　※　※

最後に、苦しい練習に毎日励んでくれた選手一人一人に対し、また、御支援、御協力頂きました学校関係者各位、御父兄の皆様方、湯沢市の皆様方に心から深く感謝申し上げます。

全国制覇を

第35回全国高校

熊本市立商業高校

女子

育てるよりも まず壊した2年間

泉 浤

　熊本市立高のインターハイ優勝は、実に24年ぶり4度目、県勢としても16年ぶりに久しぶりの大きな喜びを味わいました。
　熊本は、城南地区に小学生大会が始まってから14年になりますが、その小学生たちが中学校で大活躍し、連続8年間も城南地区の小川中、氷川中、鶴城中が全国大会で交互に優勝を続けました。県協会の小・中・高・一般にわたる一貫教育を唱えて、成功しているようでした。しかし、高校の場合は、わずかに52年の青森国体優勝（熊本選抜）のみでした。
　熊本市立高校のインターハイ優勝メンバーのうちの5名は、前述の中学8連勝の熊本最後の優勝校鶴城中から入学して来たのです。隣接する二つの小学校で5年生のときからハンドボールを始めて、うち2名（主将鋤崎と清村）は城南大会優勝、熊日学童オリンピック準優勝という経験を持って、鶴城中で他のメンバーと合流して、1年時と3年時の2回、全国中学大会の金メダルを首にさげたのでした。
　しかし、ハンドボールは5人では出来ません。十数人の入部者がしばらく試みては、あまりの腕の違いにただ目をまるくして退部していきました。その中で、現在サイドの好プレーヤー・2年生の福島は、中学時代バスケットボールを経験してフットワークが良く、本校のスポーツテスト1位で、学習成績も良く、さすがに3年生と伍して一歩もひけをとらないで残留しました。キーパーの松野は、バレーボールの経験を持って入部して来たので、位置取りや基本的な捕球動作を、授業で使うバレーボールを借りてきて指導し、徐々にハンドボールに切り替えていきました。柔軟な体と抜群の運動神経で、みるみる上達していきましたが、気も強く、部内のトラブルで1年程でやめていきました。以後の1年間は、彼女の復帰を説得するのが練習以上に大事でした。2年生の9月末の修学旅行中に皆で説得してくれたらしく、10月始めに再入部してくれて、「よし、これでチームが出来た」と喜んだ時には、まだ9人でした。すぐさま宮崎の小林商業へ合宿に行き、そこで大分東高や鹿児島の牧園高、そして、小林商らの名門校に胸を借りて自信をつけ、以来負け知らずでした。
　選手のほとんどは、学校での成績が上位で、学級委員長を3人が務め、職員間での評判が良いのは何よりも嬉しいことです。
　想い起こせば、私は育てることよりも、壊すことばかりを2年間やってきたようです。中学日本一という肩書きの容易には脱げない堅固な中学時代のユニフォームを着ているように見えたからです。心も技術も新しく熊本市立のものにするには、その中学時代のものを打ち砕く必要があると思いました。ボールを持たせないで走らせるばかりをやったり、ついには部室を閉鎖したりしました。そして新しい高校生としての自覚を持った頃と、キーパーが復帰した時期とが一致し、あとは快調にチーム作りが進んだように思います。
　11月の新人戦に優勝してから、その反省として、密かにポストの攻防が弱点であることを憂いていましたが、幸いなことに、卒業生であり、全日本のポストプレーヤーとして活躍した元太洋デパートの名選手大宮恵美子（旧姓米）氏をコーチに招くことが出来ました。二児の母親として厳しい家庭のしつけを実行している彼女は、合宿練習を通して生活全般にわたって全人格的な指導をしてくれました。何よりも女性の生理や心理に関して無知に等しい私に代って、バイオリズムを考えた適切なトレーニングの調整や心理面のトレーニングまで、実に適切な指導がなされ、インターハイでは、それが最高に発揮されたと思います。
　青春の思い出に残るような試合が、多くの人々の御援助によって展開されていきました。宿舎でも、大会場でも、道を歩いていても、温かく声援を送っていただいたお蔭で、精一杯競技することの出来たチームを代表して、心から感謝申し上げます。
　父兄を始めとして、全国の関係者の皆様の御好意に対して衷心より御礼申し上げます。

第23回オリンピック競技大会報告書

考えさせられた想像以上のプレッシャーと集中力の途切れ

全日本ハンドボールチーム監督
市原則之

1、第21回大会後の重点強化策

1971年、西独ブンデスリーグチャンピオンのグンメルスバッハ会長グロヌデ氏が、当時の日本チームを評して、「ミュンヘンの日本の順位は、10位までに入らないだろう。」と予測した。結果は予想通り11位であった。この言葉の意味することは、「日本は、スピードはあるが、スタミナと力強さがない」ということであり、日本チームに必要な条件として、「スタミナとパワー、そしてスピード」であることを指摘された。

その後のモントリオール大会においても、多くの人より同一の指摘を受けた。これらを裏付ける事実は、ゲーム内容をみれば容易に理解された。何故ならば、得点の割に失点が多いからである。この改善こそ急務であり、これらは過去の強化の反省として常々言われてきたことである。

そこで、モントリオール大会を終えて、モスクワへの道の具体的強化策として、再度、『スタミナとパワー、そしてスピードの養成』を最重点項目として繰り込んだ。以下の強化計画を推進させた。

① 日本のために戦う選手の養成

国家のために戦うということは、ナショナル選手にとっては当然のことである。しかし、過去の日本チームには、チームの結束を、チームワークの名のもとに親分、子分の関係として求めた。古い体質が残っていたり、また個人の力を過信して、チームスポーツの特性を失わせたりし、ナショナル選手としての行動が身についていない者が多く、ややもすれば世界の流れから孤立していた観があった。

これではいつまでたっても世界の檜舞台で活躍することはできない。そこで、真のナショナル選手を養成するために、単なる技術的強化だけに滞まらず、精神的な思考力の養成をおこなう。

それには、選手個人に、巾広い視野で物事を観察、あるいは判断できるような、社会的常識

を備えさせる。それが、やがてナショナリズムを浸透させ、国家のために戦う、という精神の高揚に効果があらわれる。

② スタミナ、パワー
スピードの強化

スタミナ、パワー、スピードは、ハンドボール選手に欠くことのできない基本的体力である。特に、スタミナとパワーは、日本選手にとっては、外国に勝つための、最重点強化項目としなくてはならない。ナショナルチームは、ややもすると技術トレーニングを優先させることが多いが、ハンドボール競技に必要な基礎体力の追究こそ、技術向上が期待できる最短の方法である。そこで、科学的知識にもとづいた、スタミナ、パワー、スピードの養成を、ナショナルトレーニングの最重点強化方針とする。

③ ディフェンスの強化

ディフェンスの強化は、先にも指摘されたごとく、日本チームにとっては不可欠な課題で、失点を少なくすることによって、有利にゲームを展開させることができる。従って長身の外国選手の攻撃を、スピードあるフットワークにより防ぐことが肝要である。そこで、ディフェンスの基本であるフットワークの強化を日本チームのトレーニングの基本として継続させる。

④ 個性的選手の育成

ゲーム中、自分の意志でボールを扱える、忠実な基本にもとづいた、特殊な技術保有選手の育成。

⑤ チームの若返り

チームに活気、パワー、可能性を植え付けるため、常に新陳代謝を増進させ、チームの若返りをはかる。

⑥ 優秀・有望選手の
発掘と育成

次代のナショナル選手の発掘を、全国規模で行い、将来ナショナルチーム入りできるように段階的育成を計画する。

⑦ 年次別強化目標

1977年(1)若手選手の育成。
(2)基礎的体力の養成と、技術の練磨。
イ、スタミナ、スピード、パワー。
ロ、防禦フットワーク、基本的防禦技術の習得。
(3)スピードある防禦とスピードある攻撃力の養成。

1978年(1)世界大会を経験させ、体力、技術の欠点の矯正。
(2)世界大会を経験させ、チームの矯正。
(3)スタミナ、パワーを含む、体力面をカバーするための、新しい技術の開発。

1979年(1)攻撃的防禦術の開発と取得。
(2)攻撃面でのトッププレー技術の開発と取得。
(3)世界に通用する戦術の、開発と固定化。

1980年(1)スタミナ、スピード、パワーを基本とした技術の収得。
(2)世界に適用する、個人技術の開発。

2、選手選考の経緯と大会対策

1977年から1980年までの4年間は、年次別の強化目標に添って、ある程度の成果を上げてきたが、強化部全体としての、チェックアクションはなされておらず多少問題があった。しかし目標とするモスクワオリンピックの出場権は獲得したので、その成果は充分であったと解釈される。残念ながらモスクワオリンピックの出場は実現されず、その後遺症のためか、その後の世界大会での不成績、また一九八二年のアジア大会に於いて、初めて中国に敗れてしまって、指導体制への不信が、強化部内で取り上げられ、そして一九八三年5月に、新体制のもとで現ナショナルチームが結成された。この頃から、中国、韓国等、アジア各国の強化が目に見えて進み、反面モスクワ以降無意味に過した、日本チームに対する、一般的不安と、強化対策についての不信は、容易にぬぐい去ることができない状態に陥っていた。しかし、中国、韓国の重圧のもとで発足させた、新体制への強化部目標は、「アジア予選を勝ち抜いて、ロスアンゼルス大会に出場する」ことと定め、強い信念のもとに、強化目標を着実に実行していった。その方策は下記の通りである。

① アジア予選を勝ち抜き、ロスアンゼルスに出場し、国内のハンドボール熱の高揚をはかる。

② 目的達成のため、ナショナルチームは、即戦力で固めた、短期決戦型とする。

③ 従って、先ず適材の監督を選定し、その監督に、コーチングスタッフ並びに選手

の選考を委ねる。

以上の3点が基本となり、ロスに向って、短期決戦型の新ナショナルチームが始動しはじめた。選手の選考は年齢を問わず、国内第一線で活躍する優秀プレーヤーを選考した。特に実業団のトップ2チームに、プラスアルファとした人選で、チームワークの即効性も考慮した。結果的には、モスクワオリンピック出場資格選手が核となっていた。そして、先ず、予選までの6ケ月以下の強化を行った。

① 1983年5月25日〜31日
於、名古屋市　第1次強化合宿

② 1983年6月20日〜22日
於、徳山市　第2次強化合宿

③ 1983年7月4日〜8日
於、横浜市　第3次強化合宿

④ 1983年7月13日〜27日
於、呉市他　第4次強化合宿及び対フランスナショナルチームと対戦
第1戦（横浜）
日本25—17フランス
第2戦（名古屋）
日本19—19フランス
第3戦（東京）
日本29—25フランス

⑤ 1983年7月28日〜8月1日、訪韓
韓国ナショナルチームの視察を目的に、韓国各地で開催された全韓国対フランスナショナルチームの試合を観戦する。韓国チームの攻撃力は、日本チームより秀れていることが、確認でき、以後日本チームの強化目標を、ディフェンスに重点を置くことにした。

⑥ 1983年8月12日〜19日
於、函館市　第5次強化合宿

⑦ 1983年8月29日〜31日
於、横浜市　第6次強化合宿

⑧ 1983年9月1日〜19日
欧州遠征
外人選手の高さ、重さ、パワーに順応するため、西独、ユーゴスラビアを転戦する。戦績（4勝1分3敗）

⑨ 1983年9月24日〜10月2日　訪韓
第3回アジア選手権出場
1．韓国、2．日本、3．クウェート
アジア選手権は、1、2回を日本が優勝しているため出来ればこれに勝って、その余勢でオリンピックアジア予選の突破を願ったが、韓国、クウェート他アジア諸国が相当な力をつけ結局優勝出来なかった。しかし、この大会を経験しアジアの壁が一層厚くなっていることを認識し、その後の強化目標の修正に役立たすことが出来た。また我々の最終目標は、アジア予選を勝ち抜き、ロスアンゼルスに出場する、ということを再確認して、徹底的な韓国対策に強化の的を絞り込んでいった。

⑩ 1983年10月3日〜5日
於、名古屋市　第7次強化合宿

⑪ 1983年10月23日〜29日
於、呉市　第8次強化合宿

⑫ 1983年10月31日〜11月5日　於、名古屋市　第9次強化合宿

⑬ 1983年11月7日〜10月
於、鈴鹿市　第10次強化合宿

以上、6ケ月間に、10回の国内合宿と2回の海外遠征を重ねて、アジア予選に挑む。対韓国に対しては、実力的には日本不利の感をぬぐいさることは出来なかったが、徹底的な韓国チームの分析により、勝算は充分あった。しかし、情報収集がままならない中国の存在は依然不気味なまま、予選に突入した。

アジア予選では、予想通り韓国に大苦戦して、第1戦を落とし、ロス出場が絶望的になったが、その後、全員一丸となった捨て身の奮起により、奇跡的な大逆転でロス行きの切符を手に入れ、先ずは所期の目的を達成した。そして、次に心新たにして、ロサンゼルス対策の強化を下記の通り行った。

① 1983年12月21日〜23日
於、名古屋市　第11次強化合宿
予選の反省とロスに向っての目標設定。（チェック→アクション→）

② 1984年1月9日〜13日
於、栃木県　第12次強化合宿
外人選手に対応出来る基礎体力を養成するため、徹底的な基礎トレーニングに終始する。

③ 1984年2月16日〜3月5日　欧州遠征
チームに活力を生み出さすため、若手選手の育成を目的とした。ノルウエー、ユーゴスラビア、西独への強化遠征。戦績（7勝2分3敗）。

④ 1984年3月12日〜15日
於、大阪市　第13次強化合宿

⑤ 1984年3月28日〜4月5日　於、沖縄市　第14次強化合宿
ロサンゼルスの暑さ対策として、この頃より国内の気温の高い地域を選定し合宿を行う。

⑥ 1984年4月16日～23日
於、名古屋市　第15次強化合宿
トータル的なディフェンス力を高めるために、新ディフェンスシフトの開発と、GKの能力アップを重点に強化する。チームの目標として、1試合での失点を25点以下におさえることとする。

⑦ 1984年4月24日～28日
於、横浜市他　〝ジャパン・カップ84〟
第1戦（横浜）
日本19―24ユーゴ
第2戦（東京）
日本30―13スウェーデン

⑧ 1984年5月2日～3日
於、東京　〝スポーツフェア84〟
第1戦　日本14―26ユーゴ
第2戦　日本19―24ユーゴ

ジャパンカップとスポーツフェアにて、新しく開発したディフェンスシフトのテストを行う。目標失点25点以下におさえられる自信がつく。しかしスタミナ配分に課題を残す。

⑨ 1984年5月18日～6月7日、欧州遠征
ジャパンカップ、スポーツフェア等で、出た反省点を修正し、再度新しい課題を持って欧州を転戦して、外人選手の、高さ、重さ、パワーに順応させる。
転戦国
・西独　各地のクラブチームと対戦。（4戦4勝）
・イタリア　イタリアカップ出場
日本22―25イタリア
日本22―21アルジェリア
日本22―27アメリカ
（1勝2敗　第3位）
・ユーゴ　ユーゴカップ出場
・予選リーグ
日本14―28ポーランド
日本24―22ノルウェー
・3位決定戦
日本20―22西独
（第4位）
以上の大会に参加して各国のナショナルチームと対戦し、ディフェンス力の向上に充分な成果を得ることが出来た。しかし反面、得点力の低下が気になるようになり、最終のロスまでの国内合宿でその向上を図ることにする。

⑩ 1984年6月16日～22日
於、富山市　第16次強化合宿
速攻を主体とした攻撃力のアップを目標とした合宿。

⑪ 1984年6月27日～7月3日　於、名古屋市　第17次強化合宿。最終調整1。

⑫ 1984年7月10日～14日
於、名古屋市　第18次強化合宿。最終調整2。

⑬ 1984年7月15日　於、東京　オリンピック壮行試合
全日本27―18関東学生選抜

⑭ 1984年7月16日～19日
於、栃木　第19次強化合宿。最終調整3。

以上、アジア予選終了後、9回の国内合宿と、2度の欧州遠征、そして外国チームを招いての国際大会と万全なロス対策の強化を行った。しかし短期的な強化のため、選手の疲労度からくるスタミナ面に多少不安を残した。尚、最終的選手選考は、日体協方針の15名を、予選突破した16名のナショナル選手から選び、新たな代謝は行わなかった。なぜなら、予選終了後本番までの6ケ月間で新しい選手をチームに溶け込ませていくには、時間が少な過ぎ、高まっているチームワークに水を注す虞も感じられた。それにも増して、これら15名より優れた、即戦力になる選手は見当らなかった。従って、新生全日本が誕生して、1年3ケ月の間、心・技・体共同一ポリシーを注ぎ込んだ。スタッフと選手が一体となってロサンゼルスに向うことになった。

3、現地のコンディショニング

ロサンゼルスは、事前情報よりも暑さを感じさせず、湿度が低いため気候的な環境は満足で、選手村の宿舎もスポーツ選手が生活するに充分な施設であった。また、食事も持参した日本食を間食にしたため、美食に飽きない程度に満足し選手のスタミナ源となった。反面、夜半の著しい気温低下のせいか、あるいはロス特有のスモッグのせいか、喉と胸の痛みを訴え、風邪の症状が見られる選手が数名いた。しかし試合をするに悪影響を及ぼす程には至らなかった。競技場も冷房により適温が保たれており、スポーツドリンク、テーピングサービスと至れり尽せりで、過剰気味な警備を除けば、ほぼ快

適な現地コンディションで各試合に臨むことが出来た。

4、オリンピック試合結果と戦評

A組　予選リーグ第1戦
日本13（6－7、7－13）20スイス
試合出場選手　（　）内は得点
GK　大畑、井藤
FP　山本(2)、蒲生(3)、中本(1)、生駒、池ノ上(1)、志賀、松井(2)、西山(3)、高村(1)、田口

日本チームにとって、初戦のスイス戦は当大会を占う重要な一戦として挑んだ。なぜなら予選Aグループの中で、ユーゴスラビア、ルーマニアは確実なメダル候補としても、その他の日本を含むスイス、アイスランド、アルジェリアは、全くの混戦と予想していた。従ってこれらのチームは、いち早く現地のコンディションに慣れて、早い時期の勝利が妙薬となり、チームにはずみをつけ、この混戦から抜け出したいと願っていた。従って、日本としては、何が何んでも初戦のスイス戦に勝ち、好調の波に乗らなければならないという気持で、スイス戦を迎えた。しかし異様なまでのオリンピックプレッシャーが、立ち上がりから選手をコチコチにしてしまい、勝たなければならない、という意気込みが気負いとなって現われてしまった。前半開始早々よりイージーなミスが続出し、なかなか得点を重ねることが出来ない。それでも何とか、GKとDFの踏ん張りで前半を6対7で折り返すことが出来た。後半に入ると一時期同点とし、その後、息づまるシーソーゲームを展開する。しかし相変らず堅さが抜け切らず、とうとう残り10分頃から集中力、平常心を失い、DFミス、勝負どころのシュートミスが重なり、7点差という思わぬ敗北を記してしまった。GK井藤が相手の強シュートをよく阻止し、失点を20点に押さえることが出来たが、結局要所でのイージーミスが得点に結びつかず、また、ペナルティースローが、スイスに多く、逆に退場者が日本に多いという差が勝敗の分け目として現われた。とにかく、オリンピックという一種独得の雰囲気に呑み込まれて敗退した初戦であった。

A組　予選リーグ第2戦
日本15（8－14、7－18）32ユーゴスラビア
GK　大畑、井藤
FP　山本(4)、蒲生(2)、中本、関(1)、生駒(1)、池ノ上(3)、松井(1)、西山、高村(2)、田口(1)

ユーゴは本大会の金メダル候補No1として自他共に認める強豪である。日本は去る5～6月のジャパンカップ等でユーゴと3戦し、いずれも善戦しながら勝つまでには至らないという結果で、彼等の実力は充分認識している。従って、予選リーグのユーゴ戦は、負けても止むを得ない捨てゲームとして消化し、他の国々に全精力をつぎ込む計画でいた。しかし、立ち上り日本は好調なスタートを切り、前半20分頃までリードしながら試合を進める。本来捨てゲームであるべきものが突然有利に立ったため、思わぬ欲が出てしまい、逆に平常心を失ってしまった。このスキをユーゴに突かれ、日本の雑なプレーが続出し始める。こうなればさすが試合巧者ユーゴのペース、簡単に逆転され、後は総てワンサイドの試合展開となった。ユーゴは初戦のアイスランドに思わぬ苦戦をして引き分けたうっ憤を、日本に叩きつけた感であった。日本としては負けを覚悟で何とか僅少差の勝負にすることが目的であったにもかかわらず、初戦のスイス戦に敗れた誤算が焦りとしてユーゴ戦に出て、身の程知らずの戦いを展開し、結局大差で敗退してしまった。主将の山本はよく健闘するが、未だ全体的に選手の調子が上がらない。

A組　予選リーグ第3戦
日本17（9－9、8－12）21アイスランド
GK　大畑、井藤
FP　山本(7)、蒲生(2)、中本、生駒(1)、池ノ上(3)、志賀、松井(2)、西山(1)、高村(1)、田口

アイスランドは、初戦のスイス同様、勝利を計算に入れた相手である。日本はユーゴの敗戦はともかく、スイスに敗れているだけに絶対に落とせないゲームであり、これに負ければ入賞のチャンスは殆んどない。そういった逆境の悲壮感で試合に挑むも、これが逆に気負いとなり、堅さとして現われてスタートよりリードを許す。しかし、前半中途よりペースを取り戻して同点とし、その後シーソーゲームを続けながら、9対9でハーフタイムを迎える。後半に入ると徐々に調子を上げ、日本ペースのままリードして行き残り時間10分に向う。この頃よりいままで勝っていないだけに、全員が勝ちを意識した消極的な逃げのプレーを続出させ、オーバーステップ、チャージング等の反則を取られ、加えて退場者まで出す始末である。それらの手痛いミスが原因で残り7分で逆転され、後はアイスランドペース、結局4点差で惜しい試合を落としてしまった。日本チームと欧州チームには、格段の体格差があり、そのハンディを補うものは、1．スピード、2．頭脳的プレー、3．相手を上廻る旺盛な闘争心、の3点しかなく、これらを積極的に表現し、常に相手より勝る120％の力を発揮しなければならない。闘争心で負け、積極性を失ったならば、体力的なハンディのある日本は絶対に外国チームには勝てない。日本にとって、外国チームは総て大敵で、強敵であることを、今一度肝に命じて、以後の戦いを展開しなければならない。小兵ながら主将の山本、1人で7点も決める健闘をするが、今チームに欲しいのは、全員の平均した得点と不屈の闘争心である。

A組　予選リーグ第4戦
日本22（11－12、11－16）28ルーマニア
GK　井藤、上村
FP　山本(5)、蒲生(5)、中本(1)、生駒、池ノ上(1)、佐々木、松井(5)、西山(1)、高村、田口(4)

当大会でのルーマニアは、ユーゴと並ぶ金メダル候補として高い評価を各国に与えていた。特に現地入りしてからの意気込みは相当なもので、予選リーグの前半を終了し、前評判にたが

わぬ実力を示している。日本は対ユーゴと同様に勝てないまでも善戦をし、本場ヨーロッパのハンドボールに、一泡も二泡も吹かせ、よしんば引き分けにでも持ち込めればという願いを込めて日本を飛び発って、不幸にして初戦のスイス戦を落とし、3連敗でここまできているが、この所期の目的を達成すれば、日本の評価は上がり、将来ヨーロッパと対等に戦えるための、種撒きが出来ると考えていた。そういった意味を込めた重要な一戦である。試合前のベンチの作戦も、とにかく総てに積極的に、1分の可能性でも、徹底的にチャレンジしていこうと全員で誓いあった。試合開始早々GK井藤の好守により、それを速攻に結びつけ日本リードで試合を進める。松井がよく走り、また先発で出場したチームの若手田口のシュートがよく決まる。そしてベテランの山本、蒲生が要所を締めるという全くの日本ペースで一時は3点のリードを保つ。逆に世界に名だたるルーマニアのエースアタッカーのスティンガーは、そのシュートを再三井藤に好補され、委縮して殆んどシュートを打ってこなくなっている。欧州チームに対する時、先にリードを許してしまうと、その後伸々とパワーで押して来て手がつけられなくなり、力まかせに攻め込まれたら、小兵の日本選手は倒底太刀打ち出来ない。従って欧州勢に対する勝負は「先手必勝」が鉄則である。しかし20分過ぎに手痛いパスミス、チャージング等のミスが続き、その隙を試合巧者なルーマニアに攻められ、結局前半11―12とルーマニア1点リードで終了する。後半開始後、相変らず日本の積極的なプレーが続き、またGK井藤の好守もあり、すぐに同点とした。その後一進一退を約10分間続け、ゲームは予断を許さない白熱戦となる。しかしこの時、日本にとって後のゲームに影響する魔の瞬間が訪れた。いままで再三に亘りゴールを死守し日本のペースを守り通していたGK井藤が相手の強シュートを阻止したにもかかわらず、左膝靱帯を切断してしまう。井藤と交代した、上村もよく頑張るが、生き返ったスティンガーに高打点のシュートをビシビシ決められ追加点を許してしまう。結局22―28の6点差で試合を終了した。このゲームは日本の速さと積極性を充分発揮した最高の内容であったが、井藤の負傷退場が災いした敗戦で、負け続けている日本にツキまでも逃げていった感じさえした残念な一戦であった。

A組　予選リーグ第5戦

日本17（11―7 / 6―9）16アルジェリア

GK　大畑、上村
FP　山本(4)、蒲生(4)、中本(1)、関、生駒(1)、池ノ上(2)、松井(4)、西山、高村(1)、田口

アルジェリア戦法は、本大会の話題の一つとされていた。小柄な体で闘争心を全面に出し、ボールに対する執着心と執拗なまでのボール保持、小柄な日本選手が見習わなくてはならないチームであり、彼等はどの国と対戦しても勝てないまでにも総てのゲームを少差で善戦をしている。またディフェンスも小柄な体をカバーするため一試合中オールコートマンツーマンを駆使する誠にやりにくい相手である。去る5月イタリアカップでアルジェリアと対戦し、接戦の末1点差でかろうじて勝てた経験がある。従って日本はこのアルジェリアと対戦するには、技術的勝負ではなく、いかに自分のペースで試合をし、例えゲームの流れの中でペースが乱れても、いかに我慢して流れを変えるかという精神的な戦いをしなくてはならない。そういったことをよく承知して、試合開始より全員相当気持を引き締めてかかる。最初は思いの外マンツーマンディフェンスを使ってこなかったので、日本は割合スムーズに攻撃を仕掛けることが出来、一時は6点差まで開いて、日本のワンサイドゲームで終るかに見えた。しかし前半残り20分頃から、やはりオールコートマンツーマンディフェンスを敷かれ、日本は思う様にボールが展開せずタジタジとなり、4点差まで縮められて前半を折り返す。

後半に入ったアルジェリアは、見違える程動きが活発になり、ジリジリ日本を追い上げてくる。そして15分過ぎにとうとう逆転され2点の差をつけられる。この頃から日本は、ルーマニアとの激戦及び連戦の疲れが出始め全く動きが悪くなっていった。しかし、このゲームを落とせば最下位にもなりかねない日本は奮起して主将の山本が3連続得点を上げ再逆転、そして蒲生が執念の倒れ込みシュートを決めダメを押す。その後激しい攻防を繰り返すも、何とか1点差で逃げ切った冷や汗の勝利であった。予選リーグで初の1勝を上げ大いに喜ぶべきところであるが、ゲーム終了後選手全員が、心身共に疲れ果てていたのが、次の順位決定戦に向けて不安を残し、心から喜べない状態であった。

●予選リーグ成績表
（A組）

順位	チーム	成績
1位	ユーゴスラビア	4勝1分
2位	ルーマニア	4勝1敗
3位	アイスランド	3勝1分1敗

4位 スイス 2勝3敗
5位 日本 1勝4敗
6位 アルジェリア 5敗

〈B組〉

1位 西独 5勝
2位 デンマーク 4勝1敗
3位 スウェーデン 3勝2敗
4位 スペイン 2勝3敗
5位 アメリカ 1分4敗
6位 韓国 1分4敗

順位決定戦（9～10位）

日本16（11—15、5—9）24アメリカ
GK 大畑、上村
FP 山本(4)、蒲生(2)、中本(1)、生駒(1)、池ノ上(1)、佐々木(1)、松井(1)、西山、高村(4)、田口(1)

日本は当初の目標を遥かに下廻る、1勝4敗5位という不成績で予選リーグを終了し、B組5位のアメリカと対戦することになった。アメリカはオリンピック地元開催ということで、選手全員が予選リーグの初戦から、燃えに燃えてどの対戦相手にも素晴しいゲームを展開している。しかし不幸にして、ハンドボール歴が浅いため、最後には経験の差で敗れ、予選リーグの最終戦も韓国に勝てるかに見えたが、結局引き分けに終った。従って日本に対しては執拗以上に闘志を燃やして初の1勝を狙っている。逆に日本は予選リーグの不成績が未だ尾を引き意気が上がらない。そういった心理状態が試合前より対称的に表われて前半戦をスタートする。立ち上り日本はうまくチャンスをつくるが、3本連続して手痛いシュートのミスが出る。むしろミスというより、アメリカのGKのファインプレーといった感が強く、日本のペースがつかめない。日本のGK大畑も、またディフェンス陣もよく頑張るが何分点が取れない。得点競技であるハンドボールは点を取らないことには勝負にならず、また、いかに良い守りもいつかは破られる。そういった状況の中で、やっとマイボールにしても焦ってシュートを打ちに行き相手GKのツボにはまってしまう、という悪循環を繰り返し前半5対9で4点のリードを奪われる。後半に入っても点差はますます開き、全くのアメリカペースのゲーム展開となる。ベテラン選手の息切れ、中堅、若手選手のミスと、日本にとって最悪の状態でゲームを進め、タイムアップのホイスルが鳴った時は16対24の8点差で敗れていた。日本が体の大きい外国チームに勝とうとするならば、相手の力を70～80％に押え、自分達が120％以上の力を発揮しなくてはならない。そこには1本のミスも許されず、常に集中力を高め、燃える闘魂で積極果敢な戦いを挑んで行かなければならない。それが逆の形になれば勝利のないのは当然で、精神的なひ弱さを反省させられた誠に後味の悪い試合であった。

結局オリンピック10位という不本意な成績で全日程を終了した。

5、競技の総評と反省

当大会に向けての日本の目標は、予選リーグで2～3勝を上げ総合順位で5～8位までの入賞を狙っていた。また強豪のユーゴあるいは、ルーマニアに善戦でもし、引き分けか勝利でも収めれば、メダルも決して夢ではないと大きな期待を胸にロスに乗り込んで行った。この目標は決して過大なものでなく、日本が当オリンピック強化のため欧州遠征等で各国チームと対戦した内容からして、充分可能なものであった。

しかし結果は予選リーグの1勝だけに留り、過去のオリンピックのミュンヘン11位、モントリオール9位と同程度の成績で、10位に終った。この原因は何であろうか？ 一口に言って、集中力の途切れが総てであったと感じる。オリンピックへの出場はアマチュア選手にとっては最終の目標であり、また大きな夢である。その夢が実現され周りの期待を一身に受け意気高く本大会に出場する。しかもこのたびは東欧の強豪チームの不参加によりいままでにない成績を残せるチャンスが訪れ、いやがうえにも大きな目標を背負い、またモスクワに行けなかった同僚のためにもという使命感まで漂せていた。

その過大なプレッシャーが、アマチュアスポーツの大イベントのオリンピックという一種独得なムードの中で選手を委縮させ、初戦の勝たなければならないスイスに敗れ、次の試合でそれまで国際試合で割り合い善戦していたユーゴに叩きのめされて、自分達の力に自信を失い、そのショックで集中力がピタリと途切れ、以後の試合を狂わせてしまった。勿論、スタッフもこの落ち込んだ気持を何とか立て直す様、気分転換等のあらゆる努力をするが、やっと4戦目で立ち直り、ルーマニアに善戦し、アルジェリアに1勝するも、時既に遅く目標の入賞には、ほど遠いものとなった。

しかしこの敗因は単に精神的なものだけで片付けられるものではなく、欧州勢に対して根本的に力の劣る日本は、技術、体力等を含めた総合的な反省を行い、次の強化目標に結びつけて行かなければならない。そこで以下の通り項目別の反省点を列挙する。これを裏返えすことにより今後の全日本チームの新しい強化の道しるべとなる。

① 精神的反省事項

(1) 1点勝負の国際試合の経験不足の為、せり合いに弱い。
(2) 強靭な精神力の不足。
A. 闘争心の不足。
B. 集中力に欠ける。
C. 苦痛からの逃避。
(3) ナショナル選手としての常識の欠如。
A. ナショナル選手としてのプライドが低い。
B. 自我意識が弱い。(優等生集団)
(4) 全体的に勝負根性が弱い。
A. ここ一発の弱さ。
B. 正攻法で攻防出来ない時の博奕が打てない。

② 技術的反省事項

(1) スタミナ、スピード、パワーに欠ける。
(2) 個人技能に劣る。
(3) 個人の特色が薄い。
(4) 反面、オールラウンドプレーヤーの不足。
(5) 動きのハンドボールの不足。
(6) DF力向上と反比例して、OF力の低下が目立った。
(7) 攻撃面の反省点。
A. 得点すべき者の得点がなく、全体的な得点力の低下。
B. シュート力が弱い。
C. サイド攻撃が弱い。

D．ポストプレーヤーの不足。
E．センタープレーヤーの不足。
F．2人～3人のコンビネーションプレーの不足。
G．抜群なシューター不在。

(8) 防禦面の反省点。

A．フットワークの不足。
B．フォローディフェンスが弱い。
C．サイドディフェンスが弱い。
D．先き読みプレーの不足。
E．プロフェッサーディフェンサーの不足。
F．一発の当り、カウンターアタックが弱く、押し込まれる。

③ 体力的反省事項

(1) 一試合フルに動けるスタミナ不足。
(2) 全身的筋力に劣り、特に上半身が弱い。
(3) 身体接触からくるバテが早い。

④ その他の反省事項

(1) 日本のハンドボールがヨーロッパ亜流となり、日本の特色が薄くなっている。例えば、メダルを狙うなら、ヨーロッパ同様、チーム平均190cm、90kg以上の選手を揃えなければならないが、段階的に入賞まで引き上げるには、現状の体格でもっと、もっとスピードをつけ、日本人の特性を出して行けば、充分その域に到達出来ることと確信する。
(2) ヨーロッパのレフェリングに慣れていなかった。
(3) 対戦国の事前情報、並びにレフェリング等を含めた世界のハンドボール動向の情報収集に不備を感じた。
(4) 短期決戦型の後遺症。

A．6ケ月単位の強化のため、若手導入の新陳代謝が出来ず、チームに若さが失われ、爆発的力が不足した。
B．理論的教育が不徹底であった。
C．長所だけをみて、欠点の是正が出来なかった。
D．技術的指導が優先し、基礎体力の養成トレーニングが不足した。
E．詰め込み合宿の必要性から、気分転換、疲労回復期間が短かかった。
F．国内スケジュールとの調整が、一部うまく行かなかった。そのため、国内での勝敗が全日本チームに影響し、主力選手の士気を低下させた。
G．次代を担う、若手選手（全日本B）の育成が不充分となった。

以上の通り、不成績に終れば結果論的に、数多くの反省材料が摘出されるが、これは飽くまでもチームを預かった監督自身の総合的な指導力不足の反省事項であり、短期間にもかかわらず、多くの強化目標を達成させた野田コーチ、並びにその過酷なまでのトレーニングを従順に消化した選手には何ら責任はない。特に高年齢にもかかわらず、我が身に鞭打ちながら素晴しい動きをした、山本、蒲生、中本、関等ベテラン選手には心から敬意を表する。

関係各位に感謝

反面、所期の目的である「アジア予選を突破し、ロサンゼルスに出場して、国内のハンドボール熱を高め、次代につなぐ」ということを考えれば、このロサンゼルスに出場した意義は、まことに大きい。

また、短期間にもかかわらず、アジア予選からロサンゼルスまでの全日本チームに対し、絶大なる信頼と、強い信念で環境づくりを続けた、日本ハンドボール協会に対しても感謝の気持でいっぱいである。

同時にアジア予選を勝ち抜いた球技の一つとして、高い評価のもとに当大会まで種々のご指導を頂いた日本体育協会関係者各位に心からお礼を申し述べ、ロサンゼルス出場日本ハンドボールチームの報告書とする。

市原くんご苦労さま!!

広島県ハンドボール協会長　川上正幸

今年8月、ロサンゼルス・オリンピック大会に、応援団の一員として参加しました。私にとりまして、オリンピックの巨大なエネルギーの渦巻と激しい興奮に圧倒された感激の2週間でありました。ロス・オリンピックの成績はすでに御承知の如く入賞は逸しましたが、全日本選手団は最大の技量と最善の努力を発揮し、全く思い残すことはありません。専門家の方々には一応の意見もあるかとは存じますが、現在の日本選手の体力では、これ以上は望み得べき事は不可能と推察されます。

さて市原監督と私とは、既に25年有余に亘りハンドボールを通じておつき合いがあります。

氏は、広島県山陽高校卒、広島修道大学第一回生,ユニバーシァード大会派遣、国体出場等ハンドボールの日の照る道を歩み、卒業後は広島県瀬戸内高校教官、大崎電気等々選手生活及び湧永製薬ハンドボールチーム創設に寄与し、其の後、全日本実業団大会、日本リーグ優勝、また、全日本総合大会、国民体育大会優勝等々の華々しい活躍等、その他、日本ハンドボール協会に対し積極的に協力し、今度のナショナルチーム監督に就任等、輝やかしい球歴には全く頭の下がる想いです。ことに競技力のみで無く精神的に全く円熟し、礼節を尊び先輩を敬愛し、同輩を援助、また彼等には優しく接し、一度市原監督に接した人々はその容貌とその心情に打たれ、全く人を魅了せしむるものがあり、而も指導力抜群にして将に将たる資質があり、全日本チームの監督としての実力に充ちみちたるものがあります。また、私に対しても湧永チームとして外国遠征の度毎に、また全日本チームとしてヨーロッパ遠征や、国内強化合宿の都度、手紙に絵ハガキに近況報告を送ってくれる心遣いに感激しております。今後もますます人格を陶治されて更に人生航路に飛躍されんことを祈っております。

最後に、今度のロスアンゼルスに於て公私共に大変御指導、御厚情戴きました。協会役員渡辺慶寿、大野金一、北川勇喜、川上整司、村松誠、樋口利郎、山田進先生方、並びに西村亮治、重村常伸、英伸及び蒲生功御夫妻様方々に厚く御礼申し上げます。

各地の記録から…

北信越学生春季リーグ戦

（6月9、10日）

▼1部
信州大 20―13 富山大
金沢工大 25―21 富山大
金沢大 35―15 新潟大
金沢大 19―14 信州大
金沢工大 34―14 新潟大
金沢工大 17―13 信州大
信州大 29―13 新潟大
金沢大 22―10 富山大
富山大 25―21 新潟大
金沢大 20―16 金沢工大
［順位］①金沢大②金沢工大③信州大④富山大⑤新潟大

▼2部Aグループ
長野大 23―11 金沢医科大
金沢医科大 17―16 富山医科薬科大
長野大 21―14 富山医科薬科大

▼2部Bグループ
福井大 25―8 金沢美術工芸大
福井大 31―7 北陸大
金沢美術工芸大 25―19 北陸大

▼5～6位決定戦
富山医科薬科大 29―11 北陸大

▼3～4位決定戦
金沢医科大 22―15 金沢美術工芸大

▼1～2位決定戦
長野大 19―18 福井大

国体青森県成年の部第1次予選会

（6月30日、7月1日）
〈男子〉

▼1回戦
青森ク 35―26 七戸ユニオン
青商ク 42―29 尾上ク
青森教員ク 60―18 陸自青森

▼2回戦
青森ク 32―22 野辺地ク
青商ク 33―32 青森教員ク
※青森ク、青商クは第2次予選へ。

〈女子〉
▼決勝
あすなろク 20―14 七戸CATS
※女子は第2次予選はなし。

国体東京都予選

（7月7、8日）
〈男子〉

▼1回戦
三景 39―15 東京重機
東京教員 29―24 ラージェスト

▼準決勝
三陽商会 24―20 三景
中村荷役 35―22 東京教員

▼決勝
三陽商会 23（12―7、11―12）19 中村荷役

〈女子〉
▼1回戦
東花ク 22―17 武蔵野ク

▼決勝
東京重機 32（14―7、18―5）12 東花ク

全国クラブ選手権北信越予選

（7月7、8日）
〈男子〉

▼1回戦
北農ク（長野） 14―13 柏崎ク（新潟）

▼準決勝
小松ク（石川） 30―10 北農ク
氷見ク（富山） 34―16 若狭愛球会（福井）

▼決勝
若狭愛球会 28（14―10、14―13）23 小松ク

〈女子〉
▼決勝
想球会（富山） 10（3―5、7―2）7 小松商ク（石川）

国体鳥取県予選

（7月14、15日）
〈成年男子〉

▼決勝
アシックス・ク 29（17―10、12―12）22 中部ク

〈成年女子〉
▼決勝
アシックス 33（18―1、15―1）2 米子ク

〈少年男子〉
▼1回戦
米子北高 17―15 高専
倉吉工高 24―17 米子東高
境港工高 25―12 米子西高

▼準決勝
境高 27―8 米子北高
境港工高 23―18 倉吉工高

▼決勝
境高 18（10―8、8―9）17 境港工高

〈少年女子〉
▼1回戦
米子南商高B 11―7 米子西高
米子東高 23―4 米子北高

▼準決勝
境高 24―4 米子南商高B
米子南商高 25―9 米子東高

▼決勝
境高 13（5―2、8―5）7 米子南商高

国体青森県成年の部第2次予選会

（7月15日）
〈男子〉

▼リーグ戦
青商ク 33―32 野辺地ク
青森ク 32―19 野辺地ク
青森ク 34―21 青商ク
［順位］①青森ク②野辺地ク③青商ク※青商クは資格外選手出場により3位に。

ロサンゼルス・オリンピック壮行試合

（7月15日）

全日本 27（14―7、13―11）18 全日本学生選抜

得	〔全日本〕		〔学生〕	得
0	大畑	GK	渡辺	0
0	井藤	GK	花田	0
0	上村	FP	朝生	2
1	山本	FP	加藤	1
3	蒲生	FP	小間	1
4	中本	FP	酒巻	4
3	関	FP	平林	6
2	生駒	FP	武田	1
4	池上	FP	藤井	2
0	佐々木	FP	河原	0
0	志賀	FP	木切倉	1
1	松井	FP	茂木	0
4	西山	FP	橋本	0
1	高村			
4	田口			
27	(4)	PT	(3)	18

（審・斉藤 千野）

国体新潟県予選

（7月15日）
〈成年男子〉

▼1回戦
柏崎倶楽部 39―21 新潟教員ク

▼決勝
柏崎倶楽部 26（14―2、12―2）4 小松造機

〈少年男子〉
▼1回戦
新潟選抜 29－10 中越高
柏崎工高 19－17 柏崎高
▼決勝
新潟選抜 30（16－10, 14－8）18 柏崎工高

第23回国立七大学総合体育大会

第23回国立七大学総体のハンドボールの部は、7月16日から20日まで、九州大学教養部体育館、及び福岡市民体育館において開催された。参加校は、地元九州大をはじめとする8校で、総当りのリーグ戦で順位を決した。

東北大 23－16 東京大
九州大 25－16 神戸大
大阪大 27－15 名古屋大
北海道大 24－18 京都大
九州大 22－18 東北大
大阪大 22－17 九州大
東京大 22－9 京都大
北海道大 25－20 名古屋大
東北大 25－18 神戸大
大阪大 17－17 東京大
九州大 28－19 京都大
神戸大 22－21 北海道大
東北大 28－21 名古屋大
九州大 30－26 東京大
大阪大 19－16 北海道大
東北大 24－13 京都大
神戸大 29－22 名古屋大
神戸大 17－16 京都大
東京大 21－14 北海道大
東北大 25－16 大阪大
京都大 21－21 名古屋大
九州大 28－22 北海道大
大阪大 22－17 神戸大
九州大 31－17 名古屋大
神戸大 20－18 東京大
東北大 19－10 北海道大
大阪大 25－21 京都大
東京大 27－16 名古屋大

［順位］①九州大（6勝1敗）②東北大（6勝1分）③大阪大（5勝1敗1分）④神戸大（4勝3敗）⑤東京大（3勝3敗1分）⑥北海道大（2勝5敗）⑦京都大（6敗1分）⑧名古屋大（6敗1分）
※1、2位は該当チーム間の対戦成績で、7、8位は得失点差で決定。

国体「全青森」チーム選考会

（7月21日～22日）
〈少年男子〉
▼1回戦
野辺地高B 21－16 柏木農高
野辺地高横浜 28－18 青森東高A
野辺地工高 27－5 今別高
野辺地高A 27－10 鰺ヶ沢高
青森商高 26－24 青森東高B
青森南高 31－10 青森高
▼2回戦
三本木高 20－13 野辺地高B
野辺地工高 20－18 野辺地高横浜
青森商高 27－25 野辺地高A
青森南高 17－15 七戸高
▼準決勝
三本木高 26－16 野辺地工高
青森商高 32－13 青森南高
▼決勝リーグ
全青森 24（15－9, 9－8）17 青森商高
全青森 26（16－8, 10－5）13 三本木高
青森商高 24（9－11, 15－7）18 三本木高
［順位］①全青森②青森商高③三本木高

〈少年女子〉
▼1回戦
七戸高 15－8 青森中央高
青森西高 18－7 青森東高
▼2回戦
野辺地高 17－11 七戸高
青森西高 17－10 青森商高
▼決勝リーグ
野辺地高 14（7－7, 7－3）10 青森西高
全青森 26（16－5, 10－6）11 野辺地高
全青森 14（6－6, 8－6）12 青森西高
［順位］①全青森②野辺地高③青森西高

第36回岩手県民大会

（7月21日～23日）
〈少年男子〉
▼1回戦
盛岡商高 39－16 久慈高
一戸高 15－12 福岡高
生活学園高 32－14 水沢高
▼2回戦
盛岡一高 28－11 盛岡商高
盛岡南高 22－12 岩手高
盛岡四高 42－10 一関一高
釜石南高 30－11 花巻農高
宮古高 17－11 一戸高
大迫高 28－19 盛岡三高
福岡工高 27－8 一関工高
花巻北高 33－12 生活学園高
▼3回戦
盛岡一高 33－6 盛岡南高
釜石南高 32－23 盛岡四高
大迫高 18－16 宮古高
花巻北高 24－11 福岡工高
▼準決勝
盛岡一高 20－18 釜石南高
花巻北高 19－13 大迫高
▼決勝
花巻北高 25（13－14, 12－9）23 盛岡一高

〈少年女子〉
▼1回戦
宮古高 7－6 大原商高
▼2回戦
花巻北高 18－6 宮古高
釜石商高 14－3 盛岡三高
花巻南高 27－4 盛岡白百合
平舘高 21－3 水沢高
釜石南高 21－8 向中野学園
盛岡南高 10－6 黒沢尻南高
花巻農高 15－9 久慈山形高
盛岡二高 30－5 岩手女高
▼3回戦
花巻北高 16－8 釜石商高
平舘高 12－9 花巻南高
釜石南高 17－4 盛岡南高
盛岡二高 25－3 花巻農高
▼準決勝
花巻北高 20－8 平舘高
盛岡二高 19－7 釜石南高
▼決勝
盛岡二高 12（4－4, 8－4）8 花巻北高

〈成年男子〉
▼1回戦
志高ク 37－20 日立水沢
岩手フェザント 33－18 富手スポーツ
白堊ク 44－13 鵬ク
盛岡商友会 36－23 花巻送球会
▼2回戦
花巻ク 52－24 志高ク
岩手フェザント 不戦勝 石桜ク
白堊ク 27－21 岩手大
岩手教員ク 29－25 盛岡商友会
▼準決勝
花巻ク 22－20 岩手フェザント
白堊ク 31－16 岩手職員ク
▼決勝
花巻ク 26（12－9, 14－9）18 白堊ク

〈成年女子〉

▼1回戦
岩手桐花ク 17－7 花巻ク
白梅三英芙会 19－12 岩手大

▼決勝
岩手 7－3 白梅三
桐花ク 9－5 英芙会
（16－8）

国体少年の部愛知県2次予選

◎尾張支部予選（7月21日～23日）

〈男子〉

▼1回戦
尾西 12－7 一宮南
西春 16－5 美和
五条 15－9 興道

▼2回戦
犬山南 12－9 岩倉
起工 14－10 津島東
尾西 18－13 一宮北
尾北 17－12 稲沢東
江南 15－11 津島
一宮西 13－5 西春
蟹江 21－3 五条
小牧南 18－14 木曽川
小牧工 17－13 一宮工
平和 18－13 犬山
丹羽 20－2 稲沢
一宮 25－8 佐織工

▼3回戦
犬山南 30－6 起工
尾西 22－8 尾北
一宮西 10－8 江南
蟹江 21－6 小牧南
小牧工 19－8 平和
一宮 17－10 丹羽

〈女子〉

▼1回戦
佐屋 20－4 一宮
津島女 13－2 稲沢東
尾北 12－10 江南
一宮女 25－10 小牧南
一宮商 16－8 興道
尾西 20－1 津島東
美和 12－11 一宮南
西春 16－14 津島
岩倉 14－5 犬山南
蟹江 10－5 平和

▼2回戦
佐屋 18－2 津島女
尾北 7－6 一宮西
一宮商 12－5 一宮女
尾西 25－1 美和
西春 10－8 岩倉
蟹江 11－4 犬山

※男子は3回戦、女子2回戦に勝ったチームが県大会へ。

◎名北支部予選（6月17日、24日、7月1日）

〈男子〉

▼1回戦
春日丘 11－8 瀬戸
春日井東 18－12 瀬戸西
名古屋西 12－7 春日井工
山田 11－8 明和
北 16－12 旭野
長久手 11－6 東邦
市工芸 16－7 栄徳

▼2回戦
東海 22－6 名学院
直日丘 17－10 春日井商
春日井東 24－4 東山工
千種 18－14 名古屋西
菊里 24－11 山田
北 13－8 春日
愛知工 14－13 長久手
高蔵寺 15－12 市工芸

▼3回戦
東海 23－6 春日丘
春日井東 21－15 千種
菊里 26－16 北
高蔵寺 23－15 愛知工

▼準決勝
春日井東 14－14（2 PTC 1）東海
菊里 18－14 高蔵寺

▼3位決定戦
高蔵寺 17－11 東海

▼決勝
春日井東 15－10 菊里

〈女子〉

▼1回戦
聖霊 17－11 春日井東

▼2回戦
中京女 28－7 瀬戸西
淑徳 18－9 山田
春日井商 11－6 長久手
愛知商 23－9 西陵商
菊里 16－11 旭野
名古屋西 10－3 千種
春日 23－0 北
名古屋商 13－4 聖霊

▼3回戦
中京女 16－7 淑徳
愛知商 31－7 春日井商
菊里 14－5 名古屋西
春日 26－4 名古屋商

※男子は春日井東、菊里、高蔵寺、守山、愛知、旭丘の6校が県大会へ、女子は、3回戦の勝者と緑丘商、高蔵寺が県大会へ。

◎名南支部予選（7月15、21日）

〈男子〉

▼1回戦
昭和 26－4 名商大付
名城大附 17－16 名市工
惟信 14－13 中村
日進西 16－16（1 PTC 0）富田
名古屋大谷 18－8 南陽
鳴海 19－10 星城

▼2回戦
名南工 16－9 昭和
名城大附 19－13 熱田
向陽 19－14 豊明
天白 14－13 惟信
瑞陵 24－9 日進西
日進 24－14 名古屋大谷
享栄 23－6 東郷
緑 38－9 鳴海

▼3回戦
名南工 36－12 名城大附
向陽 20－11 天白
端陵 19－17 日進
緑 29－10 享栄

〈女子〉

▼1回戦
中川商 27－9 鳴海
東海女 12－6 高蔵
中村 16－10 南陽

▼2回戦
中川商 17－4 熱田
日進西 19－5 豊明
向陽 16－7 東海女
松蔭 19－14 星城
中村 20－9 緑
惟信 7－6 名女大
昭和 10－6 天白
日進 8－8（2 PTC 1）東郷

▼3回戦
中川商 19－7 日進西
向陽 15－9 松蔭
中村 17－13 惟信
昭和 15－5 日進

▼準決勝
中川商 9－7 向陽
昭和 11－9 中村

▼3位決定戦
向陽 11－6 中村

▼決勝
中川商 14－4 昭和

※男子は3回戦の勝者と桜台、松

蔭の6校、女子は中川商、昭和、向陽と名短付、若宮商、桜台の6校が県大会へ。

◎知多支部予選（7月21日～23日）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

半田 21－9 常滑北
半田 25－11 知多
知多 16－10 常滑北

○Bブロック

半田工 21－19 東浦
半田工 19－10 半田農
東浦 16－11 半田農

○Cブロック

武豊 30－12 大府
武豊 21－14 横須賀
横須賀 19－13 大府

○Dブロック

半田東 28－8 大府東
半田東 16－14 東海南
東海南 25－13 大府東

▼準決勝

半田 26－10 半田工
半田東 14－10 武豊

▼3位決定戦

半田工 17－10 武豊

▼決勝

半田 14－9 半田東

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

半田商 不戦勝 半田農
半田商 16－1 東海南
東海南 不戦勝 半田農

○Bブロック

常滑北 19－6 大府
常滑北 18－7 半田
常滑北 17－10 阿久比
半田 8－5 大府
半田 8－5 阿久比
阿久比 12－5 大府

○Cブロック

半田東 14－3 横須賀
半田東 20－2 桃陵
半田東 31－3 知多
横須賀 14－3 桃陵
横須賀 12－3 知多
桃陵 8－4 知多

○Dブロック

武豊 21－6 内海
武豊 15－9 東海商
東海商 18－11 内海

▼準決勝

常滑北 13－11 半田商
武豊 14－10 半田東

▼3位決定戦

半田商 16－7 半田東

▼決勝

武豊 19－12 常滑北

※男子は半田、半田東、半田工、武豊が、女子は武豊、常滑北、半田商、半田東が県大会へ。

◎西三河支部予選（7月25日～27日）

〈男子〉

▼予選トーナメント

○Aブロック

▽1回戦

豊田南 16－6 三好
愛教大附 19－7 刈谷工
刈谷 22－10 衣台

▽2回戦

豊田南 16－6 三好
刈谷 21－10 愛教大附

▽3回戦

刈谷 13－5 豊田南

▽決勝

岡崎城西 23－9 刈谷

○Bブロック

▽1回戦

安城東 15－14 豊田工
一色 8－6 幸田

▽2回戦

安城東 20－5 碧南工
西尾東 17－16 一色

▽3回戦

安城東 12－10 西尾東

▽決勝

岡崎 16－11 安城東

○Cブロック

▽1回戦

岡崎工 26－11 刈谷北
知立 16－9 安城

▽2回戦

岡崎工 32－12 西尾
岡崎東 25－7 知立

▽3回戦

岡崎工 14－10 岡崎東

▽決勝

岡崎工 16－14 岡崎北

▼4～6位決定戦

刈谷 13－8 岡崎北
岡崎北 14－9 安城東
刈谷 13－6 安城東

▼1～3位決定戦

岡崎城西 28－16 岡崎工
岡崎工 16－15 岡崎
岡崎城西 21－16 岡崎

〈女子〉

▼予選トーナメント

○Aブロック

▽1回戦

一色 20－7 高浜
岡崎東 23－7 愛教大附
安城南 13－11 衣台

▽2回戦

豊田南 22－2 一色
岡崎東 29－3 安城南

▽3回戦

豊田南 9－8 岡崎東

▽決勝

安城学園 19－5 豊田南

○Bブロック

▽1回戦

岡崎商 19－3 刈谷北
刈谷 13－9 吉良
岡崎 16－3 碧南

▽2回戦

幸田 25－8 岡崎商
岡崎 16－3 刈谷

▽3回戦

幸田 8－6 岡崎

▽決勝

幸田 17－10 西尾

○Cブロック

▽1回戦

安城 16－13 岩津
西尾東 15－11 豊田東

▽2回戦

安城 25－3 知立
西尾東 18－17 岡崎北

▽3回戦

安城 21－11 西尾東

▽決勝

三好 20－10 安城

▼4～6位決定戦

西尾 13－5 豊田南
西尾 19－6 安城
豊田南 13－5 安城

▼1～3位決定戦

安城学園 15－4 幸田
幸田 13－9 三好
安城学園 11－8 三好

※男子は岡崎城西、岡崎工、岡崎、刈谷、岡崎北、安城東が、女子は安城学園、幸田、三好、西尾、豊田南、安城が県大会へ。

◎東三河支部予選（7月26日～28日）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aブロック

豊川工 13－8 蒲郡

豊橋商 14—11 桜丘
蒲郡 9—9 豊橋商
豊川工 25—8 桜丘
蒲郡 10—10 桜丘
豊川工 14—10 豊橋商

○Bブロック
新城東 22—17 豊橋西
豊橋工 12—11 国府
豊橋工 18—7 新橋東
国府 18—6 豊橋西
国府 18—8 新城東
豊橋工 17—9 豊橋西

○Cブロック
蒲郡東 21—4 新城
時習館 21—6 新城
時習館 15—14 蒲郡東

○Dブロック
豊丘 11—10 豊橋南
豊橋東 16—13 豊丘
豊橋東 12—8 豊橋南

▼決勝トーナメント1回戦
豊川工 18—14 豊丘
蒲郡東 10—9 豊橋工
時習館 18—11 豊橋商
国府 31—18 豊橋東

▼準決勝
豊川工 15—11 蒲郡東
時習館 13—12 国府

▼3位決定戦
国府 20—15 蒲郡東

▼決勝
時習館 17—14 豊川工

〈女子〉

▼予選リーグ

○Eブロック
豊橋西 33—7 時城東
豊橋西 16—4 時習館
時習館 14—4 新城東

○Fブロック
豊橋南 13—10 新城
豊丘 18—3 新城

○Gブロック
豊丘 17—8 豊橋南
国府 18—9 宝陵
宝陵 9—3 豊橋東
国府 12—5 豊橋東

○Hブロック
蒲郡東 18—10 豊橋商
豊橋商 9—5 蒲郡
蒲郡東 15—4 蒲郡

▼決勝トーナメント1回戦
豊橋西 11—9 豊橋商
豊丘 22—13 宝陵
国府 18—9 豊橋南
蒲郡東 16—4 時習館

▼準決勝
豊橋西 11—9 豊丘
蒲郡東 18—16 国府

▼3位決定戦
豊丘 17—14 国府

▼決勝
蒲郡東 14—13 豊橋西

※男子は時習館、豊川工、国府、蒲郡東が、女子は蒲郡東、豊橋西、豊丘、国府が県大会へ。

◎県大会（8月1～3日）

〈男子〉

▼1回戦
守山 21—13 小牧工
岡崎 22—11 瑞陵
国府 22—19 蟹江
半田 21—16 岡北
岡崎工 28—17 向陽
菊里 34—12 豊川工
旭丘 27—13 尾西
桜台 21—3 武豊
犬山南 22—14 蒲郡東
刈谷 32—20 松蔭
春日井東 38—9 半田工
岡崎城西 31—16 一宮西
高蔵寺 19—13 時習館
緑 24—14 半田東

一宮 22—16 名南工
愛知 35—15 安城東

▼2回戦
岡崎 24—21 守山
国府 21—15 半田
菊里 22—18 岡崎工
桜台 23—15 旭丘
犬山南 26—20 刈谷
岡崎城西 24—20 春日井東
緑 25—10 高蔵寺
愛知 27—15 一宮

▼3回戦
岡崎 15—12 国府
桜台 23—18 菊里
岡崎城西 25—22 犬山南
緑 27—16 愛知

▼準決勝
桜台 24—14 岡崎
岡崎城西 23—20 緑

▼決勝
岡崎城西 28（16—9、12—10）19 桜台

〈女子〉

▼1回戦
緑丘商 26—5 西春
三好 19—5 昭和
尾西 17—9 豊丘
武豊 12—8 豊田南
向陽 16—15 幸田
春日井 12—7 豊橋西
愛知商 15—5 尾北
名短付 26—4 半田東
佐屋 19—5 国府
若宮商 11—11 PTC 7—6 西尾
半田商 13—9 菊里
安城学園 27—9 一宮商
中京女 25—6 蒲郡東
中川商 14—13 常滑北
桜台 21—7 蟹江
高蔵寺 21—10 安城

▼2回戦
緑丘商 16—4 三好
尾西 16—15 武豊
春日井 8—6 向陽
名短付 33—7 愛知商
佐屋 15—11 若宮商
安城学園 13—5 半田商
中京女 18—7 中川商
高蔵寺 12—11 桜台

▼3回戦
緑丘商 25—9 尾西
名短付 24—12 春日井
安城学園 17—14 佐屋
高蔵寺 11—10 中京女

▼準決勝
緑丘商 17—8 名短付
安城学園 14—12 高蔵寺

▼決勝
緑丘商 19（11—2、8—5）7 安城学園

第11回全国高専大会

（7月31日、8月1日・明石市）

▼1回戦
宇部（山口） 25—13 舞鶴（京都）
桐蔭学園（神奈川） 17—13 豊山（富山）
鳥羽商船（三重） 22—20 秋田（秋田）

▼2回戦
明石（兵庫） 22—21 宇部
桐蔭学園 25—13 岐阜
大阪府立 31—10 鳥羽商船
長岡 28—22 八代（熊本）

▼準決勝
明石 18（9—7、9—9）16 桐蔭学園
大阪府立 31（17—8、14—10）18 長岡

▼決勝
明石 22（13—9、9—11）20 大阪府立

第24回香川県中学総体

（7月25日、26日）

〈男子〉

▼1回戦
山田 13－9 古高松
桜町 14－9 勝賀

▼2回戦
紫雲 18－13 山田
香東 22－3 玉藻
香川一 48－3 牟礼
桜町 17－15 光洋

▼準決勝
紫雲 24－7 香東
桜町 18－14 香川一

▼決勝
桜町 21（8－9、9－8、3－1、1－2）20 紫雲

〈女子〉

▼1回戦
古高松 10－9 桜町
玉藻 8－5 太田

▼2回戦
香東 16－2 古高松
山田 9－7 紫雲
塩江 16－5 香川一
光洋 13－8 玉藻

▼準決勝
香東 8－6 山田
塩江 11－2 光洋

▼決勝
塩江 10（3－5、5－3、2－0、0－1）9 香東

国体石川県予選

（7月22～24日）

〈男子〉

▼1回戦
県立工 29－10 松任
錦丘 20－18 金沢商
小松商 26－10 羽咋
明峰 23－17 小松
星稜 19－10 松陵
小松工 42－10 向陽
泉丘 15－9 二水

▼2回戦
金市工 21－15 県立工
小松商 27－14 錦丘
明峰 30－6 星稜
小松工 32－10 泉丘

▼準決勝
小松商 22－16 金市工
小松工 19－16 明峰

▼決勝
小松工 30（13－7、17－8）15 小松商

〈女子〉

▼1回戦
金沢商 33－5 松任
小松商 15－4 明峰
寺井 21－6 短大高
小松市女 38－1 星稜

▼準決勝
小松商 24－3 金沢商
小松市女 25－2 寺井

▼決勝
小松市女 19（7－1、12－0）1 小松商

第36回石川県中学校大会

（7月28、29日）

〈男子〉

▼1回戦
高尾台 23－19 付属
森本 12－10 西部
兼六 13－7 南部
額 15－13 松任

▼2回戦
高岡 23－18 高尾台
森本 17－16 芦城
兼六 16－15 城南
御幸 26－6 額

▼準決勝
御幸 26－6 森本?

▼決勝
御幸 21（6－7、8－7、2－2、5－2）18 高岡

〈女子〉

▼1回戦
付属 9－4 泉
御幸 13－7 山代

▼2回戦
芦城 32－2 付属
城南 17－8 高尾台
兼六 28－2 額
寺井 8－6 御幸

▼準決勝
芦城 9－8 城南
寺井 9－7 兼六

▼決勝
寺井 9（4－3、5－1）4 芦城

四国中学総体

（8月4、5日）

〈男子〉

▼リーグ戦
土佐（高知）18（10－7、8－8）15 勝山（愛媛）
勝山 17（10－7、7－6）13 桜町（香川）
土佐 16（9－5、7－9）14 桜町

〔順位〕①土佐②勝山③桜町

〈女子〉

▼リーグ戦
小川（高知）18（9－4、9－4）8 新居浜東（愛媛）

全日本学連会長に米倉功氏（伊藤忠商事社長）就任

全日本学生ハンドボール連盟は人事院総裁に就任したため退任した内海倫前会長の後任として、このたび伊藤忠商事株式会社社長米倉功氏（62）を選任した。

米倉氏は東京商大（現一橋大）予科のバレーボール部キャプテンとしてならしただけあって、精悍でエネルギッシュそのものという感じだ。

会社は総合商社第三位。実業界ではもちろん若手経営者の一人。六年間のロンドン駐在の経験もあり、文字どおりの国際人。学生にとっては勿論、ハンドボール界にとっても、正に頼れる会長さんだ。

球技を愛するスポーツマンで、ハンドボールもテレビで観戦して惚れ込んでおられる。余技ながらゴルフも実力シングルのハンディ。

塩江 12（7－2 5－7）9 小川
（香川）
塩江 20（10－3 10－6）9 新居浜東
〔順位〕①塩江②小川③新居浜東

国体近畿地区大会

（8月24日～26日）
〈成年男子〉
▼リーグ戦
滋賀 27（14－8 13－10）18 京都
大阪 33（15－9 18－10）19 兵庫
滋賀 37（18－9 19－18）27 和歌山
京都 25（12－12 13－11）23 兵庫
大阪 37（23－7 14－15）22 和歌山
滋賀 27（15－13 12－11）24 大阪
兵庫 30（16－12 14－11）23 和歌山
大阪 21（9－10 12－11）21 京都
兵庫 35（18－12 17－13）25 滋賀
京都 44（20－7 24－10）17 和歌山
〔順位〕①滋賀②大阪③京都④兵庫⑤和歌山

〈少年男子〉
▼1回戦
大阪 36（16－7 20－3）10 滋賀
▼準決勝
大阪 24（9－10 15－8）18 京都
兵庫 32（14－8 18－11）19 和歌山
▼決勝
大阪 26（11－12 15－13）25 兵庫

〈少年女子〉
▼リーグ戦
大阪 14（7－4 7－7）11 京都
滋賀 17（9－4 8－5）9 兵庫
和歌山 12（8－6 4－6）12 京都
大阪 21（12－6 9－6）12 兵庫
滋賀 19（12－4 7－5）9 和歌山
京都 13（5－4 8－4）8 滋賀
兵庫 12（6－4 6－7）11 和歌山
滋賀 16（5－6 11－7）13 大阪
京都 20（8－8 12－4）12 兵庫
大阪 15（10－5 5－2）7 和歌山
〔順位〕①滋賀②大阪③京都④兵庫⑤和歌山

アラブ首長国連邦より アル・ジャズイラー・クラブ来日

アラブ首長国連邦のスポーツクラブ、アル・ジャズイラー・クラブのハンドボールチームが、9月8日から10月7日までの1カ月、研修のために来日した。

アル・ジャズイラー・クラブは、今回も一緒に来日したバレーボールチームは過去2回来日、日本での研修を行なっているが、ハンドボールチームは初めての研修来日とあって、函館、富山、栃木の3カ所で充実した研修合宿を行ない、数々の成果を土産に帰国した。

今回来日したメンバーは、ダー・アル・スェイディー団長以下総勢24名で、高校生を主体とした若いチームであり、将来の期待される選手たちが熱心に研修合宿を行なった。

以下、アル・ジャズイラー・クラブの来日中の日程を追ってその研修内容、試合の結果を簡単にご紹介しておこう。

○9月8日
成田空港着
○9月9日
函館着
○9月10日
函館選抜 27（12－8 15－8）16 アル・ジャズイラ・ク
○9月11日
アル・ジャズイラ 27（17－4 10－18）22 函館選抜
○9月12日
アル・ジャズイラ 15（7－4 8－3）7 上磯高校
○9月13日
アル・ジャズイラ・ク 28（15－1 13－9）10 函館中部高校
○9月15日
函館大学 28（7－8 11－19）27 アル・ジャズイラ・ク
○9月16日
函館選抜 23（10－12 13－10）22 アル・ジャズイラ・ク
○9月18日
富山着
○9月19日
※30分ゲーム
アル・ク 15－13 高岡高校
全富山 14－12 アル・ク
○9月22日
※25分ゲーム
アル・ク 20－10 高岡商高
○9月23日
※交歓試合
アル・ク 23－19 氷見クラブ
富山想球会 26－21 アル・ク
○9月24日
※交歓試合
アル・ク 22－15 氷見高校
アル・ク 21－19 高岡向陵高校
○9月25日
※25分ゲーム
アル・ク 15－7 二上工高
○9月26日
栃木着
○9月27日
アル・ジャズイラ 25（12－8 13－13）21 自治医科大学
○9月30日
栃の葉ク 28（17－12 11－11）23 アル・ジャズイラ・ク
○10月2日
栃の葉ク 29（16－11 13－11）22 アル・ジャズイラ・ク
○10月3日
アル・ジャズイラ 29（12－9 17－14）23 栃木県高校選抜
○10月4日
首相官邸にて中曽根首相に面会。
○10月7日
帰国

国体第5回東海大会

（8月25、26日）
〈少年男子〉
▼1回戦
全静岡 24（15－7 9－10）17 岐阜選抜（岐阜）
愛知選抜（愛知）27（14－4 13－11）15 四日市工高（三重）
▼決勝
愛知選抜 26（12－8 14－8）16 全静岡

〈少年女子〉
▼1回戦
三重選抜（三重）17（7－2 10－3）5 岐阜選抜（岐阜）
愛知選抜（愛知）27（14－6 13－5）11 清水市立商高（静岡）
▼決勝
愛知選抜 15（10－5 5－6）11 三重選抜

〈成年男子〉
▼1回戦
大同特殊鋼（愛知）26（12－4 14－11）15 本田技研（三重）
岐阜教員（岐阜）35（14－12 16－18 2－1 3－2）33 清商ク（静岡）
▼決勝

11月～1月のハンドボールイベント

第10回日本ハンドボールリーグ〈1部後期〉

月・日	開催地	会場	第1試合	第2試合
11月3日(土)	広島・広島	広島市安芸市スポーツセンター	13：00 大和銀行×東京重機	14：30 湧水製薬×三陽商会
11月4日(日)	福岡・久留米	県立久留米体育館	13：00 ブラザー×東京重機	15：00 本田技研鈴鹿×大崎電気
11月10日(土)	北海道・函館	函館市民体育館	16：00 大崎電気×日立栃木	17：40 日新製鋼×本田技研鈴鹿
	熊本・熊本	熊本県民総合体育館	16：00 立石電機×ジャスコ	
11月17日(土)	大阪・大阪	大阪中央体育館	17：00 大和銀行×ビクター	18：20 湧水製薬×大同特殊鋼

〈2部後期〉

月・日	会場	試合	試合
11月3日(土)	大阪ガス体育館（大阪）	12：30 トヨタ自動車×大阪ガス 15：10 トヨタ車体×三景	13：50 中村荷役×イーグルス 16：30 本田技研熊本×日鉄建材
11月4日(日)	〃	10：00 本田技研熊本×大阪ガス 12：40 三景×イーグルス	11：20 中村荷役×トヨタ車体 14：00 トヨタ自動車×日鉄建材
11月10日(土)	熊本県総合体育館	14：30 トヨタ自動車×本田技研熊本	

第27回全日本学生選手権 〈11月21日～25日・金沢中央体育館〉

第16回全日本自衛隊選手権大会 〈12月5日～8日・東京・駒沢屋内競技場〉

第36回全日本総合選手権大会 〈12月18日～22日・東京・駒沢体育館、駒沢屋内競技場〉

第4回日本リーグオールスター戦 〈1月13日・駒沢体育館〉

大同特殊鋼 39（17－8、22－5）13 岐阜教員

〈成年女子〉

▼1回戦

ブラザー工業(愛知) 30（15－2、15－6）8 腕満会(岐阜)

ジャスコ(三重) 28（9－4、19－4）8 ポストク(静岡)

▼決勝

ジャスコ 20（11－7、9－6）13 ブラザー工業

富山県体育大会

○一部〈成年男子〉（8月11～13日）

▼決勝

全富山 25（12－8、13－9）17 富山教員

〈成年女子〉

▼決勝

全富山 14（8－5、6－4）9 有磯OG

〈少年男子〉

▼1回戦

氷見高 39－8 富山南高

向陵高 28－10 富山商高

▼決勝

氷見高 23（12－11、11－10）21 向陵高

〈少年女子〉

▼1回戦

高岡商高 34－8 向陵高

有磯高 11－8 高岡女高

▼決勝

有磯高 18（9－5、9－3）8 高岡商高

○二部〈一般男子〉

▼1回戦

八尾ク 20－12 東磐若ク

氷見ク 33－21 全高岡

▼2回戦

想球会 19－17 八尾ク

氷見ク 17－15 射水ク

▼決勝

氷見ク 19（13－8、6－0）8 想球会

〈一般女子〉

▼1回戦

高岡女OG 18－6 小杉OG

有磯OG 20－9 想球会

▼決勝

有磯ク 22（9－4、13－1）5 高岡女OG

〈中学男子〉

▼1回戦

南星中 17－12 般若中

呉羽中 21－18 氷見北中

大門中 30－8 上滝中

八尾中 25－15 福岡中

▼2回戦

呉羽中 19－14 南星中

八尾中 24－7 大門中

▼決勝

呉羽中 16（8－5、8－6）11 八尾中

〈中学女子〉

▼1回戦

国吉中 18－15 氷見北中

呉羽中 22－7 出町中

▼2回戦

国吉中 19－15 杉原中

小杉中 13－8 呉羽中

▼決勝

小杉中 21（11－7、10－0）7 国吉中

○三部〈ママさん〉

コスモス 8－4 富女OG

コスモス 6－3 あじさい

あじさい 5－3 富女OG

〔順位〕①コスモス ②あじさい ③富女OG

ハンドボールを より強く！より広く！
―賛助会の輪を広げよう―

この素晴らしいハンドボールを、１人でも多くの人に知ってもらいたい、という趣旨から設けられた賛助会も、お蔭様で１年足らずで法人会員18社（うち特別法人会員17社）個人会員158名（うち特別個人会員49名）に達しました。

個人会員の年会費を１口5,000円に抑えたのは、できるだけ多くの人にハンドボールを知ってもらいたい、学校を卒業したあとハンドボールから遠ざかってしまった人にもっとハンドボールをエンジョイしてもらいたい、という考え方からそうしたのですが、日本リーグ関係者を初め特別法人会員の方々には、その牽引者として、多くのご無理をお願いしております。

賛助会費収入から機関誌増刷及び送料等の経費を控除した残余は、ナショナルチームの強化や普及事業などの財源に充てられていますが、選手強化には相当な金がかかるうえ、ロス・オリンピックで痛感されたように若手選手（高校生から中学生まで）の育成強化にはこれまで以上に金がかかります。

また、日本協会は、小学生に対するハンドボールの普及を当面の最大の課題としています（これが頂点強化にもつながります。）それが親子ハンドボールにつながって、ハンドボールの輪はますます大きくなっていく……。

どうか賛助会員の皆さんも、そのような輪の核となって、その輪をもっともっと大きくしていって欲しいと思います。お一人が２名、３名の知人を誘っていただければ、会員の数は直ちに数倍になります。

会員の特典として、魅力あるものを追加すべく具体案を練っています。あらためてアンケートをとる予定でおりますので、その節はよろしくお願いします。

特別賛助会員御芳名

（受付順、太字は前号以降。敬称略。）

※特別法人会員　㈱デサント　アシックス㈱　新日本製鉄㈱　㈱三陽商会　中村荷役運輸㈱　㈱三景　ジャスコ㈱　大同特殊鋼㈱　ブラザー工業㈱　日本ビクター㈱　大田印刷㈱　大崎電気工業㈱　日新製鋼㈱　㈱日立製作所栃木工場　立石電機㈱　日鉄建材工業㈱　**湧永製薬㈱**

※特別個人会員　滝沢　武（滝沢ハム・栃木市）　斎藤英四郎（日本協会・東京都）　荒川清美　武田喜三　大野金一（同）　竹内史衛（淡青社公認会計士事業所・東京都）　伊藤克己（群馬県）　黒田富郎（日本協会・日野市）　平岡秀雄（日本協会・東京都）　岡村千春（所沢市）　渡辺慶寿（日本協会・宇都宮市）　阿部二郎（同・茨城県）　滝口三郎（同・東京都）　北川勇喜（同・横浜市）　大西武三（同・茨城県）　中沢重夫（同・東京都）　金原至（同・氷見市）　林達夫（同・名古屋市）　正畠明雄（広島市）　川上整司（日本協会・狭山市）　村田弘（同・堺市）　岡前義春（同・府中市）　富永劭（同・水戸市）　安藤純光（同・日野市）　山本佐知子（ノタリーノ・東京都）　嶋田新太郎（氷見市）　木下浩次（名古屋市）　田中滋章（日本協会・名古屋市）　小袋是郎（福岡市）　入江信太郎（日本協会・茨城県）　柳井文治（日本協会・下松市）　山田計（日本協会・豊中市）　黒住宗晴（岡山）　福田誠（日本協会・東京都）　境井秀三（日本協会・桶川市）　高橋満年（愛媛）　伊藤和夫（日本協会・名古屋市）　梅村忠雄（名古屋市）　三鴨博（立川市）　日野　博（北九州市）　河本武夫（日本協会・松山市）　高田日呂美（日本協会・東京都）　近藤正次（岡山市）　山田　稔（日本協会・藤井寺市）　幡谷祐一（水戸市）　**清水正**（日本協会・甲府市）　**古屋　正**（甲府市）　**原　信雄**（東京都）　**松原紀機**（日本協会・米子市）

財団法人日本ハンドボール協会賛助会

笑顔があります。涙があります。
躍動があります。記録への挑戦があります。
チームプレイの和があります。
からだを動かしていると
人生の大切なものがたくさん見えてきます。
新日鉄は、スポーツを通し
心身を鍛える皆様に声援をおくります。

新日本製鐵

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二三五号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五九年十月二十五日 印刷
昭和五九年十一月一日 発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表(03)[illegible]六一
振替 東京六ー五八二四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五拾円(年間購読料三千三百円)